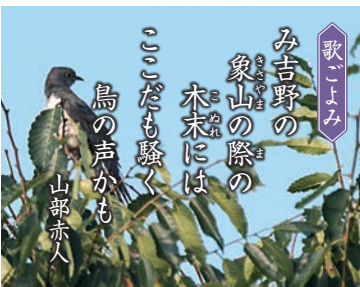


皇學館
学 園 報

第79号
令和元年 5 月



■注目記事	3面
天皇皇后両陛下を奉送迎	
	5面
平成30年度卒業生 就職状況	
アカデミック	6面
第1回 日本とイランの宗教対話 会議を開催	
地域連携	7面
平成30年度CLL活動報告	
特別企画	8面
佐川記念神道博物館特別展 「即位礼と大嘗祭」開催	
	10面
教学振興会寄付者芳名	
インフォメーション	11面
人事異動 ほか	
アクティブスチューデント	12面
尾西永遠さん(教2)がeスポーツで 世界大会出場 ほか	
K-らいいふ	
退任によせて ほか	

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大 学
大学院 文学部 教育学部
専攻科 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

学長インタビュー

「地方創生の一翼を担う」 河野訓新学長が抱負

清水潔前学長の任期満了に伴い、河野訓神道学科教授・副学長が平成三十一年四月一日より新学長に就任した。少子化の進展や大学入試改革など私学を取り巻く経営・教育環境の変化を見据えどのような大学づくりをめざすのか、さらなる飛躍へ向けての抱負をお伺いした。

学長に就任された現在の心境をお聞かせください。

本学の創立、廃学、再興という歴史を考えると、非常に大きな責任を感じています。入学式で令旨を奉読した際は、本学の建学の精神であることを改めて胸に刻み、心して読ませていただきました。

大学を取り巻く状況が変化する中で、今後どのような舵取りが必要だと思われますか？

近隣の自治体、産業界と構築してきた信頼関係をもとに連携を深め、これまで以上に地域の活性化に貢献していきたいと思っています。

本学は文部科学省が実施する平成二十六年「地(知)の拠点整備事業」に採択されたことを受け、地域人材を養成する教育プログラムに取り組んできました。その中で感じたのは、本学に対する自治体や住民の期待が想像以上に大きいということです。先日伊勢市の広



報紙の特集を手掛けたCLL活動について市長から直々にお礼の言葉をいただきました(七面下参照)。

地(知)の拠点整備事業としては最終年度である平成三十年度をもって終了しましたが、「伊勢志摩定住としての責務を果たして参ります。

「新時代に求められる資質・能力を磨く」

センター試験に代わる新テストの導入など二〇二〇年の教育改革に向けて、どのような対策をお考えですか？

教育課程や入学者の受け入れに関する基本的な方針(ポリシー)についてはホームページに掲載している通りですが、より質の高い教育を行うには学生の生の声をカリキュラムに反映させることが有効と考えており、その一環として「授業評価アンケート」を実施しています。

先生には「何を教えたか」よりも「学生が何を身に付けたか」に重きを置き、学生が自分の成長

自立圏共生学「教育プ

ログラムは継続して実施します。そういう意味ではここからが本番であり、勝負の年。今後とも地域の要望に応え、地域に開かれた大学としての責務を果たして参ります。

を実感できる教育を期待したいですね。幸い、本学は教員と学生との距離が非常に近い。先生が学生一人ひとりのニーズや考えをしつかり把握し、責任をもって教えていただきたいと思っています。

一方で、学生には教員任せの受け身な学修姿勢ではなく、自ら考え、学ぼうとする意欲や主体性を磨いてもらいたいのです。国の教育改革の背景にはこれからの時代に対応すべく「思考力・判断力・表現力」を一層重視するとの考えがベースにあります。これらの資質・能力を養うためにも様々な課外活

動に積極的に取り組み、視野を広げてほしいですね。本学としても先ほど挙げたCLL活動をはじめ産官学連携事業や部活動など学生が「実践知」を得られる機会や場を増やし、後押ししていきます。

「自らの個性を発揮し、社会に役立つ人材に」

我が国の文化といえば、新元号の「令和」が国書「万葉集」を典拠としたことに注目が集まりました。

齋藤茂吉の『万葉秀歌』を高校時より愛読しており、今回「万葉集」への関心が高まったことは個人的にも嬉しく感じています。元号は現在日本のみが受け継いでいる世界に類のない文化です。天皇の治世を表す言葉という意味でも、大切に参りたいと思います。

大学の奉祝行事としては佐川記念神道博物館で特別展を開催し、五月三十一日から八月三十一日まで「即位礼」、十月一日から十二月二十一日は「大嘗祭」に関する貴重な資料を公開します(八面参照)。学生はもとより市民や観光の方々に広く見ていただき、皇室や伝統について見聞を深めてほしいと思います。

最後に学生へのメッセージをお願いします。

神道では「清浄」が一番の徳目とされています。神様に恥じない

では実践的な英語教育プログラムを取り揃えています。学生の皆さんにはこれらを活用して、ぜひ世界へ飛び出してほしいですね。そして、留学先で日本について質問されたとき、我が国の歴史や文化を正しく発信できるよう、言葉の壁を感じないまでに語学力を磨いてほしいと思います。

自分であるかを生き方の規範とした上で、確固たる建学の精神のもと、本学で学ぶ皆さんには教員との触れ合いの中で心を磨き、現代社会や地域と関わり合いながら個性を発揮して、社会に役立つ人材になってほしいと思います。人の成長は遅々たるものですが、自らを生かす道を求めて一步一步、さらなる高みをめざしてください。

学長就任披露宴を開催

四月二十四日、神宮会館にて約百名が出席し、河野訓学長の就任披露宴が開催された。

佐古一朗理事長の挨拶の後、ご来賓を代表して鈴木健一伊勢市長、



抱負を述べる河野学長

鈴鹿医療科学大学の豊田長康学長、伊勢商工会議所の上島憲会頭よりご祝辞をいただいた。河野訓学長の謝辞の後、清水潔前学長の発声で乾杯。乾杯酒には本学が明和町との産官連携にて醸造した「神都の祈り 斎王」が、卓上には伊勢市との連携による「神都の祈り 御裳濯川」が供され、賑やかに宴は始まった。最後に中村欣一郎鳥羽市長の万歳三唱があり、和やかな雰囲気の中にお開きとなった。



天皇陛下の御即位に伴って令和が始まった▼出典が『萬葉集』巻五の梅花の歌の序であることやそれが中国の王羲之「蘭亭集序」などの影響を受けたものであることはたびたび報じられたところだ▼これまで「令」の文字は東アジア全体でも元号に用いられたことがないという。かなり独創的な文字使用ということになる。この令は命令の意味ではなく、令嬢や令息の熟語に見られるように良いという意味である▼新鮮な感じがするとインタビューに答えた人がいたのもう行で始まる元号が奈良時代の靈龜と鎌倉時代の暦仁・暦応(南朝)の三つを数えるに過ぎないためだろう▼そもそも和語(日本語)においてう行で始まる単語は存在せず、漢語や外来語によってもたらされたものだけだ▼一方、エ段は延喜、慶長、天保、明和など八十以上を数えて最もポピュラーな母音。最近だけでも平成、明治、慶応がエ段の音となっている。音声面で見ると新規性と親近感の絶妙な取り合せといえる▼元号はその時代の出来事や世相を象徴する。令和の御代が我が国や世界にとって良い時代となるよう万歳を祈りたい。

新時代を担う七六八名が入学

平成三十一年度 皇學館大学入学式

倉田山の桜が満開になった四月三日。本学記念講堂にて入学式が挙行された。今年度は、大学院十二名、専攻科十一名、学部七百四十四名、編入学一名の計七百六十八名が入学した。

「伝統を受け継ぎながら新しい皇學館を創生

入学式は午前十時にスタート。新入生らは真新しいスーツに身を包み、緊張の面持ちで式に臨んだ。国歌斉唱の後、河野訓新学長が令旨を奉読。続く学長式辞では、まず「伝統を受け継ぎながら、



入学を許可され、力強く宣誓を行う新入生代表



令旨を奉読する河野学長

諸君の力で新しい皇學館を創生してほしい」と新入生への期待を述べた。また本学の創立から復興までの歴史や「建学の精神」を表した「令旨」について説明し、日本の歴史と伝統に

基づく教学を確立し、維持・発展を図るという本学の姿勢を示した。

また「地(知)の拠点大学」としての取組みなどにも触れ「本学のめざすところは学修者本位の教育体制です。『教える教員』と『学ぶ学生』という二元的な図式から脱却し、自己実現のために、自ら積極的に努力することを怠らないでください」と激励。「記念すべき新元号の年に入学した諸君

とともに、新しい皇學館大学を築いていきたい」と締めくくった。

その後、佐古一洵理事長から告辞、小松揮世久神宮大宮

「この地でしか学べない知識や体験を

大田菜月さん(国史)は、小説がきっかけで「国史」に興味を持ったという。本学を選んだ理由を「日本史を学べる大学は多いが『国史』を学科名に掲げていることに惹かれた。将来は、芸芸員など歴史にまつわる仕事に就きたい」と語った。山口夢響さん(現代)は「日本と外国の社会の違いに興味がある。長期休暇は

司から来賓祝辞をいただき、入学生宣誓、閉式の辞によって式は滞りなく終了した。午後からは、入学生らは神宮参拝へ向かった。

中高で入学式



宣誓する落合さん

四月八日に皇學館中学校入学式(三十名)が、翌九日に皇學館高等学校入学式(三三六名)が挙行され、学校生活への期待に目を輝かせた新入生たちが式に臨んだ。

式辞で「これからの時代は新たなものを生み出す力、自ら学ぶ力、日本人としてのアイデンティティが欠かせない」と述べた上村桂一学校長。最後に「新入生の皆さんが今日の喜びを忘れず、元気に、そして有意義な学園生活を送ることを心から期待します」とエールを送った。中学校は伊藤晃二さん、高校は落合美緒さんが新入生代表として登壇し、本校の建学の精神に基づき学業に専念するとともに皇學館生としての誇りと自覚ある行動を誓った。

文・現日で志願者増 平成31年度 本学入試状況

平成31年度の入学試験では文学部・現代日本社会学部で志願者が増え、特に現代日本社会学部では前年度比108.4%と2年連続での躍進となる喜ばしい結果であった。全体の総志願者数は前年度比97.7%であった。

学部・学科	募集人員	志願者数	合格者数
神道学科	70	216	162
国文学科	80	298	199
国史学科	80	299	193
コミュニケーション学科	80	264	196
文学部	310	1,077	750
教育学部	210	925	434
現代日本社会学部	100	387	204
大学計	620	2,389	1,388

高向正秀氏が常務理事に

◆就任のご挨拶◆

4月1日付を以って常務理事を拝命いたしました。何卒宜しく申し上げます。

昭和48年母館を卒業、神宮に奉職し同52年郷里に戻りましたが、42年振りに多感な青春時代を過ごし、惟神の精神を教示頂いた伊勢の地を再び踏むことができ、心より嬉しく思っております。

この上は、佐古理事長を全身全霊を懸けてお支えし、皆様のお力添えを頂きながら、我が国の悠久の歴史を肌で感じることができる本学の教育理念を推し進め、民族の魂を子々孫々継承すべく微力ながら努めてまいりたいと存じます。

素より浅学菲才の身、何卒御指導御鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

高 向 正 秀 ◆たかむく まさひで (69歳)	
昭和48年 3 月	皇學館大学文学部国史学科卒業
昭和48年 4 月	神宮奉職
昭和52年 4 月	宗像神社権禰宜
平成14年 4 月	宗像大社禰宜
平成15年 7 月	神社本庁参与
平成16年12月	神宮評議員
平成21年 7 月	宗像大社宮司
平成31年 8 月	学校法人皇學館 5 号理事就任
平成31年 4 月	学校法人皇學館常務理事就任

④学園の発展に尽力できるよう粉骨砕身頑張ります。

学生支援部就職アドバイザー
辻 宗久

- ①三重県 ◆元日本たばこ産業株式会社(JT)社員
- ②旅行、日曜大工
- ③用意周到
- ④学生一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしています。

総務部情報担当事務嘱託
大達 仁美

- ①三重県 ◆三重大学人文学部卒
- ②ネットショッピング
- ③健康第一
- ④皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思います。

附属図書館事務室事務嘱託
杉田 園子

- ①愛知県
- ②音楽鑑賞、旅行
- ③一期一会
- ④皆様のお役に立てるよう努めてまいりたいと思います。

学生支援部事務嘱託(クラブ宿所)
上林 拓磨

- ①茨城県 ◆明治学院大学経済学部卒
- ②ネットサーフィン
- ③不屈
- ④合宿所の学生たちを精いっぱいサポートしていきます。

学生支援部事務嘱託(クラブ宿所)
高橋 司

- ①岡山県 ◆皇學館大学教育学部教育学科卒
- ②美味しい物を食べる
- ③男の修行
- ④寮の学生と一緒に良い環境作りをしています。

学生支援部事務嘱託(貞明寮寮母)
森 和子

- ①熊本県
- ②読書、スポーツ観戦
- ③一生懸命
- ④明るく元気に寮生さんに接し、サポートしていきます。

皇學館高等学校・中学校

高等学校常勤講師
中谷 寛汰

- ①三重県 ◆皇學館大学文学部国史学科卒
- ②スポーツ鑑賞
- ③人生楽しんだもんがち
- ④充実した学校生活を皆さんが送れるよう頑張ります。

高等学校常勤講師
平田 拓海

- ①三重県 ◆島根県立大学総合政策学部卒
- ②映画鑑賞、野球観戦
- ③性格は顔にでる、生活は体にでる
- ④生徒にとっての高校生活が最高のものになるように、ともに精進していきましょう。

高等学校常勤講師
堀尾 幸弘

- ①三重県 ◆東京理科大学理学部卒
- ②ジョギング(たまに自転車)
- ③これからがこれまでを決める
- ④生徒とともに成長できるよう頑張りたいと思います。

高等学校常勤講師
松田 緋菜里

- ①三重県 ◆皇學館大学国文学科卒
- ②バスケットボール、音楽鑑賞
- ③驚きは、知ることの始まりである。
- ④生徒のみなさんの人生に関われる事に誇りを持ち、ともに頑張ります。

高等学校常勤講師
南 千尋

- ①三重県 ◆皇學館大学国文学科卒
- ②読書、柔道
- ③不撓不屈
- ④生徒の学校生活をサポートできるように、精進していきます。

中学校常勤講師
戸上 幸

- ①三重県 ◆皇學館大学文学部国史学科卒
- ②映画鑑賞、スポーツ
- ③一期一会
- ④生徒一人ひとりが充実した中学校生活を送れるよう精一杯努力していきます。

平成最後の勤労奉仕団として



皇學館大学の皇居勤労奉仕は今年で22年目となり、4月1日より4日の日程を団長以下21名で、皇恩感謝の誠を捧げ愛国心と恋慕心の滋養を目的とし、平成最後の本学勤労奉仕団として皇居及び赤坂御用地の清掃奉仕をさせていただいた。奇しくもちょうど御譲位を1月前に控える皇居において御奉仕させていただき、団員一同、国柄の淵源たる皇室と御譲位を目前にお控えなさる天皇皇后両陛下に忠を尽くさんと各員一層の事奮励努力し奉仕に臨み清掃等の奉仕に励んだ。

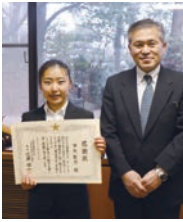
また奉仕期間中畏れ多くも天皇皇后両陛下、並びに皇太子殿下に御会釈の折には、ねぎらいの御言葉と本学についての質問や学校生活についていくつか御下問なされ、「有意義な学生生活を」との御言葉を賜り団員一同恐懼感激の極みであった。

先日の伊勢行幸啓奉迎に参加した折、雨中にもかかわらず多くの学生が集ったことに、本学学生の皇室への尊崇揺らくことなく、また次回令和最初の勤労奉仕団の成功を確信しつつ、今後も奉仕団が本学の伝統的活動として続いていくことを心より切に願う。

皇居勤労奉仕団第22代団長 矢崎裕也(神4)

三重県警から
田矢聖乃さん(現3)に感謝状

田矢聖乃さん(現3)が少年警察ボランティア「若樹サポーター」の活動を通し、非行少年を生まない社会づくりに貢献したとして三重県警から感謝状を贈られた。



同サポーターは三重県警が少年らと年齢の近い学生を対象に平成23年度より募集を開始。毎年50人が委嘱を受け、スポーツやレクリエーション活動を通じて少年らの立ち直りや居場所づくりに大きな役割を果たしている。

天皇皇后両陛下を奉送迎

天皇皇后両陛下が退位の報告をする「親調の儀」に臨むため、四月十七日から十九日かけて三重県を訪問された。在位中の地方訪

問はこれが最後となる。本学では十七日、十八日の両日にわたり御幸道路の大学正門から内宮・外宮方面の歩道に教職員及び学生・生徒のべ三千七百名が整列。御料車が通過すると日の丸小旗をはためかせ奉送迎した。両陛下は車の窓

を開け、にこやかに手を振って応えてくださり、学生・生徒は「神々しいお姿に感動した」と感激しきりの様子だった。

学長退任の御挨拶

清水 潔



平成二十三年四月以来三期八年間にわたり学長職を拝命し、このたび任期満了につき、退任することとなりました。大学関係者とは、もとより、広く教育文化、行政、経済等、社会各方面の多くの皆様方の御理解と御支援を得て、職責を全うできましたことに深く感謝申し上げます。

在任中、平成二十四年に皇學館創立百三十年・皇學館大学再興五十周年を迎え、さらにその翌年平成二十五年には第六十二回神宮式年遷宮が斎行され、大学の原点、拠って立つ精神的学問の基盤と使命を再確認す

る絶好の機会を得たことは、まことに幸いであり、感佩に堪えないところであります。特に現在の三学部、ワンキャンパス体制への移行展開は、伴前学長からの引き継ぎ事業であり、これを軌道に乗せることができるかどうか、本学の命運にかかわる問題として問われていました。この難局を乗り切るために、大学将来ビジョンを踏まえた「中期行動計画」を策定し、その目標実現に向かって全学一体となって推進する体制を整えられたこと、また教育学部大学院、研究開発推進センターの設置による教育研究環境の全学的整備充実を進められたこと、も有意義でした。加えて、平成二十六年に文科省のCOC事業に本学の「伊勢志摩定住自立圏共生学」教育プログラムが採択され、「地(知)の拠点」大学としての展開を図れたこと、

県内の社会連携協定や大学間連携が進捗したこと、国際化の伸展、その他、駅伝、陸上、柔道、野球など全国レベルでの活躍が注目されるようになり、学内の空気が明るく活性化しつつあることも、嬉しいことです。いずれの分野も献身的な教職員と学生の弛まぬ尽力により着実に進展がはかれました。

河野訓新学長は、学問的にも人間的にも誠実で、自らに厳しい姿勢を貫きながら、優しく穏健なお人柄であり、内面に強い信念を秘しておられます。今後さらに厳しい時代を迎えるであろう大学を担われるに相応しい方であると期待しております。私の任期中にたまりましたと同様に倍する御支援お力添えをお寄せくださいますようお願い申し上げます。退任の御挨拶とさせていただきます。

コミュニケーション学科で
新カリキュラムがスタート

心理実験・心理検査室

知覚、認知、パーソナリティ、臨床、社会などの分野の検査や実験を行うために使用。代表的な検査用具や実験道具、データ解析用のパソコンなどが設置されている。



心理面接室

心理面接や箱庭作成などの遊戯療法を行うための応接セットや遊具が整えられ、リラックスした雰囲気です。箱庭作成の様子や面接場面を隣室からハーブミラー越しに観察することも可能。

新任教職員紹介

この春から新たに加わった教職員の方々を紹介します

①出身地・経歴等 ②趣味・特技等 ③座右の銘 ④一言メッセージ

皇學館大学

神道学科准教授

岩城 隆宏

- ①大阪府 ◆皇學館大学文学部神道学科卒、春日大社権禰宜
- ②スノーボード、料理
- ③人は人の鏡
- ④現役の神職ならではの授業に取り組んでまいります。



国文学科准教授

千邑 淳子

- ①愛知県 ◆愛知学院大学法学研究科修士課程卒、現あま市美和図書館館長
- ②医療系・刑事ものの国内外ドラマの鑑賞(図書館関係のシーンを見逃さないことが特技)
- ③傷つくの怖れるな! 唯一無二の個性を大切に
- ④素敵なキャンパスで皆さんと過ごす貴重な時間を大切にします。



国史学科助教

長谷川 怜

- ①愛知県 ◆学習院大学大学院博士後期課程満期退学、元千代田区立日比谷図書文化館文化財事務室学芸員
- ②中国へ行くこと、古書店巡り
- ③知識は魂の食物である
- ④歴史学の楽しさが伝わる授業と、自らの研究に大いに努力します。



コミュニケーション学科助教

高沢 佳司

- ①青森県 ◆法政大学大学院人間社会研究科修了、元愛知学泉短期大学講師
- ②読書(真田氏史料)
- ③日進月歩
- ④稽古照今を体現できるよう精進して参ります。



コミュニケーション学科助教

玉田 貴裕

- ①岐阜県 ◆元愛知淑徳大学講師
- ②カラオケ、スポーツ観戦
- ③失敗を恐れない
- ④学園の皆さん



の力になれるよう一生懸命頑張ります。

コミュニケーション学科助教

中山 真

- ①静岡県 ◆名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程、元鈴鹿大学こども教育学部准教授
- ②手抜き料理
- ③Happiness is a perfume you cannot pour on others without getting a few drops on yourself.
- ④専門は心理学です。よろしくお願いします。



教育学科助教

吉本 隆哉

- ①兵庫県 ◆国立大学法人鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程修了・博士(体育学)、元国立スポーツ科学センタースポーツ科学部研究員
- ②映画・ドラマ鑑賞、クライミング、ドライブ、食べ歩き など
- ③和
- ④4年間の大学生活でそれぞれの最高到達点に達することができるよう、頑張ります。



教育学科助手

中村 真緒

- ①三重県 ◆皇學館大学大学院教育研究科修士課

程修了 ②クラシックバレエ、ジム通い、芸術鑑賞 ③人のために灯をともしれば、自分の前も明るくなる ④皆さんの心に寄り添い、共に成長していきたいです。



現代日本社会学科准教授

瓜田 理子

- ①福岡県 ◆ワシントン大学大学院博士課程修了
- ②ドゥルパド、有職装束
- ③梵我一如
- ④本学のため、学生のため、心をこめて授業を行い、研究に励み、地域貢献に努めます。



総務部人事担当書記補

北井 優那

- ①三重県 ◆成城大学大学院卒
- ②食べること、カフェ巡り
- ③一意専心
- ④こつこつ丁寧に業務に取り組めます。どうぞよろしくお願いします。



学生支援部入試担当

神内 憲孝

- ①福井県 ◆佛教大学社会学部卒
- ②大学野球観戦
- ③一所懸命



❖❖卒業生随想❖❖

視野広げ、“感謝”学んだ4年間

神道学科 杉原 徳里

【奉職先】 砥鹿神社



4年前の春、未知への期待と不安を胸に入学式を迎えた。あの時の緊張は今でも覚えている。しかし、私の不安とは裏腹に仲間恵まれ、多くの方々に支えられ、4年間は驚くほど早く過ぎた。

私は一般家庭からこの学科に入ったため、神職課程における講義、実習は新鮮なものばかりであった。それ故に困難にぶつかることは多かったが努力を重ね、時に仲間と支え合い乗り越えたことは今では良い思い出である。

大学生活を通して私は視野が広がったと思う。そして、何気ない日常の中にも多くの感謝すべきことがあると気づいた。これから再び新環境での生活が始まる。不安はある。しかし、これまでに培ってきたことを活かし、家族をはじめ支えてきてくれた多くの方々、あらゆることへの感謝の気持ちを胸に日々精進していきたい。

深い学びを社会生活へ繋げたい

国文学科 飯田 愛梨

【就職先】 桑名市幼稚園



「日本のことばと文学に対して興味をもち、それを学ぼうとする強い意欲を有している」。これは、国文学科で掲げられている方針の一つである。

4年間の国文学科での生活を振り返ると、本当に充実した学習ができたと思う。そう思えるのも、先生方の講義によって大好きな国語や国文学に触れ、興味を持ち続けることができたからであろう。中でも私は中古文ゼミに所属し、『源氏物語』などの分析や資料の作成、脚注の解説を行ってきた。よって、「物語の情景を思い浮かべ、本当の意味での内容理解に繋げていくこと」の大切さを学べた。私に大きな影響を与えてくれた国文学科での学習を大切に、今後進んでいく社会生活にも繋げていける皇學館大学の卒業生でありたい。

CLL活動が進路を決めるきっかけに

国史学科 岡田 真宗

【就職先】 南伊勢町役場



皇學館大学で過ごした4年間は学科における講義、サークル活動、CLL活動、ゼミ活動など、非常に内容の濃いものであった。卒業論文では「大塩平八郎の研究」に取り組んだ。完成させる事はできるのか不安であったが、定期的にゼミメンバーや友人と読み合わせを行い、切磋琢磨して取り組んだ。CLL活動では伊勢志摩地域の魅力や取組みについて知る事ができた。CLL活動は私の大学4年間において大きなウェイトを占めており、就職先を決めるきっかけにもなった。社会人になっても、大学4年間の学び、特にゼミの先生の学びを胸に刻んで、日々精進していきたい。

出会いと繋がりに感謝

コミュニケーション学科 多湖 優花

【就職先】 三重県中学校教員(英語)



大学生活で私は入学前に想像していたよりも数多くの経験をする事ができた。おそらく、それは1年生の夏に何気なしに行った海外留学から始まった。そこから、国境を越え、多くの人と出会い、自国の文化を愛し、異文化も尊重しながら生きていくことの大切さ、伝えることの難しさ、伝わった時の喜びを学んだ。そして、この留学をきっかけにあらゆるプログラムに関わらせていただき、私自身の中で責任感が芽生えるとともに、広い視野を持つことができた。私と出会い、多くのことを教え、共に喜び、励まし成長させてくれた全ての方々に感謝したい。そして、これからの人生において、皇學館大学で学んだ知識、人との繋がりを大切に、社会貢献できるようしっかりと前を見据え、何事にも挑み続けていきたい。



学位記・修了証書の授与に続き、各種表彰者に賞状が贈られた

平成30年度 学位記・修了証書授与式 受賞者等一覧

博士の学位授与	文学研究科国文学専攻博士後期課程	管 浩 然
	文学研究科国史学専攻博士前期課程	桐 田 貴 史
	教育学研究科教育学専攻修士課程	北 村 健 太
	神道学専攻科	堀 須美子
	文学部神道学科	山 内 響 貴
	文学部国文学科	坂 井 万 桜
	文学部国史学科	上 村 彩 華
	文学部コミュニケーション学科	多 湖 優 花
	教育学部教育学科	鈴 木 優 里
	現代日本社会学部現代日本社会学科	中 川 莉 緒
総 代	教育学部教育学科	勝 田 将 郎
	文学部国史学科	渡 邊 宗 一郎
	教育学部教育学科	打 田 彩 夏
	現代日本社会学部現代日本社会学科	山 口 理 喜
恩賜奨学賞	文学部国文学科	中 下 美 沙
	文学部コミュニケーション学科	白 田 優 果
大 宮 司 賞	神道学専攻科	西 村 博 司
	文学部神道学科	中 村 勇 貴
理 事 長 賞	文学部神道学科	大 原 魁 刀
	文学部国史学科	杉 崎 加 奈
学 長 賞	文学部神道学科	河 原 正 知
	文学部教育学科	森 友 佳 子
統 理 賞	文学部神道学科	河 原 正 知
	文学部教育学科	森 友 佳 子
長谷奨学賞	文学部神道学科	河 原 正 知
	文学部教育学科	森 友 佳 子
送 辞	文学部神道学科	河 原 正 知
答 辞	文学部教育学科	森 友 佳 子

社会福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰	現代日本社会学部現代日本社会学科	平 谷 亜都子
精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰	現代日本社会学部現代日本社会学科	村 井 玲 奈
保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰	教育学部教育学科	林 佳 那

誇りを胸に、いろいろな方に感謝しながら精進していきたい」と晴れ晴れとした表情で語った。

理事長賞を受賞した中下美沙さん(国文)は念願だった図書館司書の資格を取得。「司書課程を通して図書館がコミュニケーションスペースであることや人と人の繋がりの大切さに気付いた。一般企業で事務職に就くが、これら学んだことを大事に頑張っていきたい」と話した。

学長賞に選ばれた白田優果さん(コミ)は小学校、中学校の教員免許を取り、並行して心理学の研究に没頭した。「大学では仮説を検証したり、疑問に感じた点を納得いくまで突き詰める研究の楽しさを教えていただいた。今後は学校臨床心理士をめざして大学院に進学することが決まっている。将来は子どもと関わる仕事ができれば」と目を輝かせた。

それぞれの決意を胸に、大海原へ漕ぎ出した卒業生。本学で得た羅針盤を携え、力強く未来を切り開いていくに違いない。

受 賞 者 一 覧		
高 校	神宮大宮司賞	松 本 堅
	学校法人皇學館理事長賞	三 谷 優 季
	三重県知事賞	山 川 ひより
	日本私立中学高等学校連合会会長賞	長谷川 千 紘
	伊勢商工会議所会頭賞	梶 野 嘉 人
	体育功労賞	田 中 悠 貴
中 学 校	学芸功労賞	松 田 朋 子
	特別優等賞	河 村 隆 雅
		里 中 愛 華
		藤 田 晃 輝
	知 事 賞	藤 田 晃 輝
		藤 田 晃 輝



答辞を読む黒田さん(高校)

「修学旅行や体育大会など諸行事を通して多くの学びと成長を得た」と高校生活を振り返り、「新たな時代を新たな所で迎えることとなり、変化が求められる。しかし、皇學館高校で学んだ清明正直の人格、自国の文化を重んじ、日本人としての誇りを持つて生きるという原点を忘れず、新時代をそれぞれの道で躍動したい」と力強いメッセージを発した。そして苦楽を共にした仲間に対し「心のつながりは切れることはありません」と続け、この伊勢で巡り合えた縁を大切に、「さようなら」ではなく、「また会おうと伝えたい」と答辞を読み上げた。

皇學館中学校の谷水彩乃さんは「反省はしても後悔はするなどの教えをモットーに、私たちは何度も失敗を重ね、何度も反省をしてきた。だからこそ成功したときの喜びを味わうことができた」と学校生活を通して得た学びに触れ、「これからはこれまで築き上げた絆と友情を胸に、悔いの残らないよう仲間と切磋琢磨し、何事にも前向きに挑戦していく」と固く誓った。

三月十八日、麗らかな春の空の下、午前十一時半より平成三十年度学位記・修了証書授与式が記念講堂で執り行われた。艶やかな袴やスーツに身を包んだ学生らは早朝に外宮、内宮御垣

内を参拝し、大御神に無事に卒業を迎えられたことをご奉告し、授与式に臨んだ。式辞で「グローバルな世界の中で潮流に乗り、未来を開くのは諸君のような若者」と呼び掛けた清水潔学

将さん(教育)は津田学園小学校で教鞭をとる。「先生になりたくて皇學館に入学したので嬉しい気持ちでいっぱい。平成の時代に皇學館大学の素晴らしい教授陣のもとで学ばせていただいた

三月一日に皇學館高等学校で三八〇名が、皇學館中学校では同月十六日に三十八名が卒業式を迎え、思い出の詰まった学び舎を後にした。

上村桂一校長は式辞の中で「量子力学の父」と称され

「皇學館での学びを社会で実践するとき」

恩賜奨学賞を受けた勝田将さん(教育)は津田学園小学校で教鞭をとる。「先生になりたくて皇學館に入学したので嬉しい気持ちでいっぱい。平成の時代に皇學館大学の素晴らしい教授陣のもとで学ばせていただいた

三月一日に皇學館高等学校で三八〇名が、皇學館中学校では同月十六日に三十八名が卒業式を迎え、思い出の詰まった学び舎を後にした。

上村桂一校長は式辞の中で「量子力学の父」と称され

「自ら考え、探究し、判断を」

を解決してほしい」と訴えた。高等学校の黒田結規さんは

平成最後の卒業生七三九名が巣立つ

平成三十年度 学位記・修了証書授与式

「修学旅行や体育大会など諸行事を通して多くの学びと成長を得た」と高校生活を振り返り、「新たな時代を新たな所で迎えることとなり、変化が求められる。しかし、皇學館高校で学んだ清明正直の人格、自国の文化を重んじ、日本人としての誇りを持つて生きるという原点を忘れず、新時代をそれぞれの道で躍動したい」と力強いメッセージを発した。そして苦楽を共にした仲間に対し「心のつながりは切れることはありません」と続け、この伊勢で巡り合えた縁を大切に、「さようなら」ではなく、「また会おうと伝えたい」と答辞を読み上げた。



第54回 皇學館 高校卒業式
第38回 皇學館中学校卒業式

「自ら考え、探究し、判断を」

理論物理学者ニールス・ボーアが残した「深い真実の反対は、やはり深い真実である」との言葉を心に刻んでほしいと紹介。背景に、ニールス・ボーアが研究を始めた二十世紀初頭の物理学において「正しい答え」と言われていたことの多くが誤りであったと話し、「先人が培った知識をただそのまま積み上げるのではなく、自ら思考し、探究して未知の問題を解決してほしい」と訴えた。高等学校の黒田結規さんは

「修学旅行や体育大会など諸行事を通して多くの学びと成長を得た」と高校生活を振り返り、「新たな時代を新たな所で迎えることとなり、変化が求められる。しかし、皇學館高校で学んだ清明正直の人格、自国の文化を重んじ、日本人としての誇りを持つて生きるという原点を忘れず、新時代をそれぞれの道で躍動したい」と力強いメッセージを発した。そして苦楽を共にした仲間に対し「心のつながりは切れることはありません」と続け、この伊勢で巡り合えた縁を大切に、「さようなら」ではなく、「また会おうと伝えたい」と答辞を読み上げた。

就職内定率九七・八%

平成三十年度卒業生就職状況

平成三十一年三月学部卒業生七三五名の就職状況は、就職希望者六三六名のうち就職決定者は六二二名となり、就職希望者に対する内定率は九七・八%となった。なお、文部科学省が五月十七日付で発表した「平成三十年度大学等卒業者の就職状況調査(四月一日現在)」での内定率は九七・六%となっている。

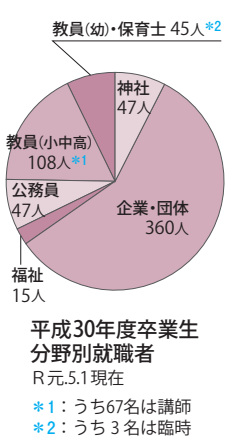
平成30年度卒業生 就職状況		R元.5.1現在			
学 科		卒業生 A	就職希望者 B	就職者 C	就職率 C/B
神 道	男	58	51	51	100.0%
	女	20	16	16	100.0%
国 文	男	38	34	33	97.1%
	女	57	46	42	91.3%
国 史	男	95	80	75	93.8%
	女	64	55	54	98.2%
コミュ	男	23	18	18	100.0%
	女	87	73	72	98.6%
教 育	男	56	48	48	100.0%
	女	42	36	33	91.7%
現 日	男	98	84	81	96.4%
	女	112	95	93	97.9%
合 計	男	137	118	117	99.2%
	女	249	213	210	98.6%
	男	109	102	100	98.0%
	女	19	17	17	100.0%
	男	128	119	117	98.3%
	女	437	385	379	98.4%
	男	298	251	243	96.8%
	女	735	636	622	97.8%

神社関係 四十七名が奉職

求人神社数一四四社二七名(男子一六一名、女子三十八名、男女問わず十八名)に対し、奉職状況は神道学科が男子三十六名・女子八名、国史学科が男子一名・女子二名となった。神道学専攻科等の学部以外は男子十一名・女子一名であった。

教職関係 三重県小学校・合格者占有率は今年度も県内大学でトップ

小・中・高の教員に一〇八名(正規/公立三十九名・私立二名、講師/六十七名)、幼稚園・



公務員関係 計四十七名が採用

国家公務員は九名【皇宮警察一名、法務教官一名、刑務官一名、自衛官幹部候補生一名、自衛官一般曹候補生三名、自衛官候補生二名】が採用された。

地方公務員は三十八名【三重県(福祉技術職)一名、市町行政職十三名(四日市市一名・鈴鹿市一名・津市二名・伊勢市二名・鳥羽市一名・志摩市三名・南伊勢町一名・大台町一名・御浜町一名)、消防二名(知多中部広域事務組合一名、蟹江町消防一名)、警察官二十二名(警視庁一名・愛知県警一名・岐阜県警一名・三重県警十五名(内女子四

名・大阪府警二名・兵庫県警一名・佐賀県警一名)が採用となった。

一般企業関係 昨年度より約五十名増

企業・団体は三六〇名(前年三〇九名)が決定。業界別では、サービス業三〇・五%、卸売業・小売業二九・四%、建設・製造業一三・三%、金融・保険業七・五%、情報通信業六・四%となっている。

今年度の就活環境 就職活動の早期化・短期化が進む

令和二年三月卒(現四年生)のマイナビ大学生就職内定率調査によると、平成三十一年三月末時点の内々定率は前年比三・二ポイント増加の一・七%と就職活動の早期化・短期化は年々進んでおり、学生は三年生の夏休み頃からインターシップに参加する流れが主流となってきた。インターシップを何らかの形で採用と連携させる企業は七割を超え、その後の採用を意図したインターシップが実施されている。また、平成三十一年卒の大卒求人倍率が一・八八倍と七年連続増加しており「売り手市場」と報道されることが多いが、実情としては従業員規模三百人未満の企業が求人倍率を引き上げており、一概に就職環境がいいとは言えないところがある。就職活動に真剣に取り組む必要がある。

●保護者対象就職講演会・説明会を開催します▶本紙10面下

就職者ボイス

神職編

早めの準備が力ギともいえる就職活動。今回は、神職となる夢を叶えた先輩たちの声を紹介します。

- ① 志望理由
- ② 成功の秘訣・工夫
- ③ 後輩へのアドバイス

守部 銀河(神道)

【奉職先】湊川神社



西尾 帆乃夏(神道)

【奉職先】靖國神社



堀江 昂佑(神道)

【奉職先】富士山本宮浅間大社



柳瀬 諒(神道)

【奉職先】宗像大社



① 指定実習以外にも夏冬に神社奉仕させていだいたことで、より神職を志す決意が強固になった。雅楽を奉職後も行いたいと考えた。② 神職養成部の方々に履歴書を添削していただき、推敲を重ねた。精進に二年在寮し、人間性・協調性を培ったことが面接で高く評価された。③ なぜ神職を志望するのかを明確にして自己分析をしつかりと行うこと。これだけは他人に負けない武器(能力)を身に付けること。① 戦争を風化させないためにも英霊、遺族の方々の思いを多くのの人に伝え、未来に受け継ぎたい。② 自己PRに見るため友人に相談したり神職養成部に何度も通い履歴書を添削していただいた。神社の歴史についてノートにまとめ、想定問答を作成して面接に臨んだ。③ 早くから勉強を始めること。また、履歴書や面接では大学生活でどれだけの活動をしてきたかがすべて。遊んでしまいがちだが、部活動や学外活動など、

① 卒業後長く仕事をしたいうえで、好きな神社と関わっていききたいの気持ちが強かった。実習で奉仕させていたとき、その信仰の強さに感銘を受けた。② 社家ではない私にとって神域での奉仕は神社を知るいい機会となった。神職養成部のご指導のもと、自身がどうしたいのかをはっきりさせることができた。③ 百聞は一見に如かず。実習のみならず、多くの神社で奉仕させていた中で自身の理想像が明確化してくる。

“協力”の大切さを知った 4 教ミュージカル

教育学科 竹谷 紅葉
【就職先】三重県小学校教員



自分自身を大きく成長させることのできた4年間であった。日々勉学に励みながら教育アシスタントやCLL活動に参加し、視野を広げることができた。また、ダンス部に所属し、仲間との絆を深めながら活動できたことは、かけがえのない思い出である。ゼミ活動や卒業論文作成では、仲間と先生と共に進めることができた。そして、一番印象に残っているのは4教ミュージカルでの経験だ。実行委員長という立場から集団をまとめる中で、みんなで一つのものを作り上げる事の大変さを実感した。しかし、この経験の中で、様々な考え方を知ることができたり、協力の大切さを知ることができた。これからは教師として大学で学んだことを生かして、頑張っていきたい。

多様な視点で考える力が身に付いた

現代日本社会学科 森本 春那
【就職先】三交不動産



私は3年生から現代日本社会学科に転学部することが決まり、とてもわくわくしていた。自分自身が本当に学びたいことがこの学部にはあり、刺激溢れる日々を送ることが出来ると確信していたからだ。ゼミ活動では週に1冊本を読みディスカッションし、知識を増やす。そして、学んだことを行動に移す所まで、遠藤先生にアドバイスをもらいながら実践した。あらゆる物事に対して「なぜ」を投げ掛け、多様な視点から考える力をつける。成功者は普通の人の何百倍も失敗しているのだから、失敗は良しとする考えを持てたのも、遠藤ゼミでの教えがあったからだと思う。4月からは三交不動産に勤める。自分の弱い所も強い所も全て認めて、社会人になってもこの大学生活で学んだことや初心、感謝を忘れずにいきたい。

努力という栄養は 神職として花を咲かせる活力に

神道学専攻科 山根 佑太
【奉職先】鹿島神宮



移り行く季節を感じながら1年間はあっという間に過ぎ去っていった。春には新しい学問に触れ、夏には実習を重ねて初めて神社での生活を経験した。秋には知識と作法のレベルをさらに上げ、冬には修了奉告祭を執り行った。この1年間は桜の木のように多くのことを吸収し続けた。努力という栄養はこれから先、神職として花を咲かせるための活力にきつとなるはずだ。まずはこの1年を無事に修了できたのは先生方、神職養成部の皆様、共に頑張った仲間たち、そして応援してくれた家族のおかげである。心から感謝申し上げたい。ありがとうございました。

大きく成長できた2年間

大学院国文学専攻 長岡 由莉
【就職先】三重県 高校教員(国語)



私にとってこの2年間は、大学4年間よりも濃密な時間だった。大学では教育を中心に学んできた為、大学院での学び、研究は何もかも新鮮だった。最初の頃は授業についていく事に必死だったが、共に頑張っていた同期の存在は励みになった。2年目は修士論文がいよいよ本格的になり、研究が進む日と進まない日の差の激さに悩む事も多々あった。そのような時に支えてくださったのが、指導していただいた教授、諸先生方だった。進むべき道を見失っている時には手を引いてくださり、時には厳しく、丁寧に指導してくださった。この2年間は、私自身、大きく成長出来た時間だった。この時間を助めてくださった教授には、心から感謝している。この恩を忘れず、今の自分をベースにさらに飛躍出来るよう、日々努力していきたい。

貞明寮増築竣功祭を斎行

学生寮統合による貞明寮(大学女子寮)増築竣功祭が平成31年3月13日に貞明寮食堂にて執り行われ、佐古理事長をはじめとする学校関係者14名、工事関係者7名の計21名が参列した。斎主は秦神職養成部長が務め、祭員は学生3名が奉仕。その後、精華寮食堂にて竣功式・直会が行われた。なお、旧・貞明寮は改修され、この4月から競技力・技術力の向上と学生生活の利便性を高めるべく高校・大学の強化指定クラブ(男子)の合宿所として利用されている。部員たちは「もう一つの教育の場」である同合宿所において皇學館生にふさわしい規律やモラルを学ぶ。



加藤教授が県教職員剣道大会で優勝し全国大会へ

教育学科の加藤純一教授が平成31年2月24日、いなべ総合学園高等学校で開催された第28回三重県教職員剣道大会「55歳以上の部」において見事優勝。これにより、8月11日に鹿児島県で開かれる第61回全国教職員剣道大会に三重県代表チーム(5人制団体戦)の大将兼監督として出場することとなった。本学剣道部は優秀な剣道家を多数輩出している。加藤教授は「現在、志摩にある神武参剣道場に通り、本学卒業生である山地先生兄弟等と稽古をさせていただいている。こうした先輩方との出会いが、今回の試合結果に繋がったと思う。よい結果が残せるよう頑張ってます」と意欲を語る。なお、この大会には3年前に本学教育学部を卒業した川北将秀さん(伊賀市立阿山小教員)も個人戦で出場するなど、活躍が期待される。



平成30年度(2・3月実施分)フィールドワーク一覧

学科	引率教員	日 程	目的地・方面
国 内			
教 育	加藤 純一	2/7(水)～2/10(日)	出雲
	小孫 康平	2/25(月)～2/28(木)	九州(鹿児島・熊本・長崎・佐賀・福岡)
	中條 敦仁	3/5(火)～3/8(金)	長崎・福岡
	山本 智子	3/5(火)～3/8(金)	東京
現 日	新田 均司	2/18(月)～2/21(木)	東京
	鶴沼 憲晴	2/27(水)～2/28(木)	三重県内
	灰谷 和代	2/25(月)～2/28(木)	沖縄(本島)
海 外			
国 史	田浦 雅徳 谷口 裕信 堀内 淳一	2/27(水)～3/2(土)	台湾
	外山 秀一 芳賀 康朗 川島 一晃 桐村 喬	2/24(日)～2/27(水)	台湾
コ ミ	大杉 成喜 叶 俊文 秋元 雅仁	3/4(月)～3/8(金)	タイ(プーケット・バンコク)
	駒田 聡子 渡邊 賢二	2/26(火)～3/2(土)	グアム
教 育	中村 哲夫 市田 敏之	3/5(火)～3/8(金)	グアム
	豊住 誠 深草 正博 吉田 直樹 土谷 長子 吉田 明弘 野々垣明子	3/5(火)～3/8(金)	シンガポール
現 日	井上 兼一 渡邊 毅	2/25(月)～2/28(木)	大韓民国・ソウル
	梶 美保 高橋摩衣子	3/5(火)～3/9(土)	マレーシア
現 日	小木曾一之 加藤茂外次 杉野 裕子 片山 靖富	3/4(月)～3/8(金)	イタリア・ローマ市
	佐藤 武尊 (他大学合同実施)	3/4(月)～3/9(土)	タイ(バンコク)
現 日	筒井 琢磨 大井智香子 藤井 恭子	2/24(日)～2/27(水)	台湾
	榎本 悠孝 関根 薫	2/24(日)～2/28(木)	シンガポール

「家族観」をテーマに意見交換
「第1回日本とイランの宗教対話会議」開催



清水潔学長(当時)を中心に日本側代表(左)とイラン・イスラム共和国代表(右)が熱心に意見交換

日本・イランの外交関係樹立九十周年にあわせ、在東京イラン・イスラム共和国大使館イラン文化センター主催、本学共催による「第一回日本とイランの宗教対話会議―イスラームと神道」が二月九日、本学九号館にて開催され、「家族観」をテーマに活発な意見交換が行われた。

アカデミックな対話の継続を約束

「第一回日本とイランの宗教対話会議」はキリスト教や仏教など様々な宗教・信仰との対話を百回以上実施してきたイスラーム文化交流庁とイラン文化セン

ター(代表 ディーヴサール・ホセイン参事官)が企画。宗教学者で日本宗教学会の理事などを務める本学櫻井治男教授が世話人となつて協力し、日本・イランの外交関係樹立九十周年にあたる今年、本学での開催が実現した。

テーマはイスラームと神道における「家族観」。文化交流庁長官のアブーザル・エブラーヒミ・トルキヤマン氏は「イスラームの教えでは宗教の遵守と円満な家庭を持つことは相互に影響する」とし、「家庭において神聖に生き、家庭の神聖さを守ることで健全な人間が育てられ、健全な社会が生まれる」と語った。



挨拶に立つ櫻井教授

在インドネシア・イラン・イスラム共和国代表宗教指導者であるアブドルマジード・ハキム・エラーヒー氏は聖クルアーン(聖典)には「家庭は人類の平穏と成長のための最初の場」、ハディース(預言者ムハンマドの言行録)には「家族制度は価値ある、そして情愛に基づく制度であり、イスラームではこれより情愛にふれた組織はない」とされていることに言及した。

本学神道学科の松本丘教授は「皇室と家族国家論」について説明し、本学教育開発センターの板井正斉准教授は神社・神道に關した社会調査から日本における地域コミュニティと家族のあり方に変容が生じていると提起。神宮禰宜の吉川竜実氏は近年の神職の著作からその家族観を考察した。岡市仁志神社本庁研究祭務課長は神棚祭祀・祖先祭祀といった家庭祭祀は日本人の伝統的信仰であり、家族を大切にしてきたことの表れとした。

最後に龍谷大学の佐野東生教授がアカデミックな対話の継続を呼び掛けると櫻井教授が「次回はいランで開催を」と応えて「日本イラン宗教対話協会」の設立計画を発表。その後出席者全員で記念撮影を行い、終了した。

本学の貴重資料をデジタル化
国文学研究資料館と連携へ



調印式でのロバート・キャンベル氏(右)

学術情報拠点にふさわしいデジタルアーカイブの構築をめざしてきた本学は国文学研究資料館と連携し、同館が進めてきた「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネッ

国文学研究資料館と連携へ

トワーク構築計画」に關し、主

- ① データベース構築の協力事項
- ② 画像データの作成等
- ③ 国文学研究資料館における画像の公開・利用
- ④ 皇學館大学における画像の公開
- ⑤ 知的財産管理
- ⑥ データの二次利用

この締結により、神道や皇室文化をはじめ本学が所蔵する多くの国学、文学、語学、歴史学等の文献資料を順次デジタル化し、国内

国際熊野学会熊野例会を開催
「西行の和歌と旅」

西行法師生誕九百年にあたる平成三十九年度末の三月十七日、「西行の和歌と旅」をテーマに国際熊野学会熊野例会が那智山青岸渡寺尊勝院にて開催された。

午前中に開かれたセミナーには上智大学文学部教授で西行学会初代会長の西澤美仁氏、上田女子短期大学教授で西行学会常任委員の

中西満義氏、本学名誉教授の半田美永氏が登壇。半田教授は正岡子規や佐藤春夫が西行をどう分析していたか、現代作家が西行をどう捉えているかなど、近代文学に与えた影響をかつてない切り口で考察した。その後のシンポジウムでは活発な質疑応答が行われ、「なぜ西行は旅に出たのか」等の問いに、

「世捨て人ではなく、和歌に関わりやすい生活スタイルをとったのではないか」といった意見が交わされた。最後に半田教授が「西行の生誕地である紀の川市で西行学会と国際熊野学会の合同例会が開催できれば」と次への期待の言葉を述べ、締めくくった。



多様な切り口から西行を考察

外で広く利活用できるようインターネット上で公開する。

同館のロバート・キャンベル館長は三月六日の覚書調印式で「皇學館大学にはほかでは閲覧することのできない神道や国学等に関する貴重な資料が多く所蔵されている。双方にとつて相乗効果を発揮することは間違いなく、この度の覚書締結は私どもにとつても大変ありがたい」と期待を寄せた。

＊日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画
国文学研究資料館が中心となり国内外の大学と連携。「日本語の歴史的典籍(近代以前に日本人によつて書かれた書物)約三十万点を画像データ化し、既存の書誌情報データベースと統合し「日本語の歴史的典籍データベース」を構築する。同館H.P「新日本古典籍総合データベース」で十万点弱が公開中。

Global グローバル

海外ビジネスを学び、異文化を知る 平成30年度 海外インターンシップ (中国プログラム) 報告

2月18日から22日にかけて中国の上海・蘇州で、第三銀行と本学との連携協定に基づく海外インターンシップを実施した。



学生は、事前に第三銀行のご担当者様より中国経済の概要や日常では見えない中国のビジネスや文化などの実情についてご指導いただいた。また中国で事業展開を行うことを想定したマーケティング課題も与えられ、目的を明確にして臨むこととなった。

2月18日、3名の学生は引率指導の堀内准教授（文学部国史学科）とともに中国に降り立ち、翌日から第三銀行の現地駐在員の方にご指導いただきながら、日系企業4社を訪問した。学生は事業内容などの説明を受け、中国でのビジネスの実態や働き方・考え方、習慣などの説明をいただき、普段、日本では感じられない刺激を三者様に受けたようである。

この経験を生かして、今後の学生生活がより豊かになることを願いたい。

堂々と英語で語るまでに成長 高校ニュージーランド語学研修

3月12日から21日までの10日間、現2年生の15名がニュージーランド北部、オークランドにおいて語学研修を行った。



今回の研修先は11～12歳の生徒が通う「ブルースマクラーレンインターミディエイトスクール」。初日は、環境・文化の異なる場所でいかに自己表現をするかの基礎を学んだ。現地校の生徒とも休み時間になると笑顔いっぱいであいさし、授業にも参加した。週末には現地の文化である「マオリ」についても体験的に学び、伝統である乗馬にも挑戦した。家庭でも最初こそ標準の会話スピードや家族同士村度のない日常生活に苦労したものの徐々に慣れ、生徒・ホストファミリー共に笑顔が見られるようになった。

研修終盤にはホストファミリーに感謝の意を伝える「SAYONARA party」が行われた。会場には多くの人々が集まり、生徒は思い思いのスピーチを披露した。そこに以前の不安に満ちた表情は無く、堂々と英語を語る姿があった。

この10日間で生徒達は国境を越えたコミュニケーション能力・対応力など数々の力を身に付け、英語力に加え、人間性においても成長した。これを機にますます英語学習に拍車をかけていってほしい。

瀬田京子さん(高校)が三重県 スポーツ功労団体賞受賞

平成30年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）を盛り上げるべく立ち上げられた三重県高校生活動南地区推進委員会。同委員会の副委員長として1年生の時からPR活動を行ってきた瀬田京子さん(高校・今春卒業)が大会の成功に貢献したとして三重県スポーツ功労団体賞を受賞した。瀬田さんは「開催の2年も前から準備をしているとは知らなかった。支える側の高校生も多く、スポーツだけの大会じゃないとわかった」と話し、「人との関わり方も勉強になった。自分と異なる意見に対して不満ではなく提案を行い、みんなで前向きに取り組んでいくことが大事だと感じた」と活動を振り返った。



活発な意見交換が行われた成果発表会

エリザヴェタ・ヴァネヤンさん(ロシア)は「宮崎駿のアニメから日本、神道に興味を持った。ロシアでは日本文化の専門的な情報が非常に少ないので貴重な情報が得られた。帰国後も学校などで伊勢の魅力を伝えていきたい」と語った。ウギス・ナス

また毎日SNS等で発信をしてもらい、伊勢の魅力の情報発信にも有意義だった。このプログラムは未来への種まきのようなもの。参加者が将来研究者になったとき、彼らが次世代へ日本文化を伝える役割を担うことで日本に関心を持つ人が増えていけば」と語った。

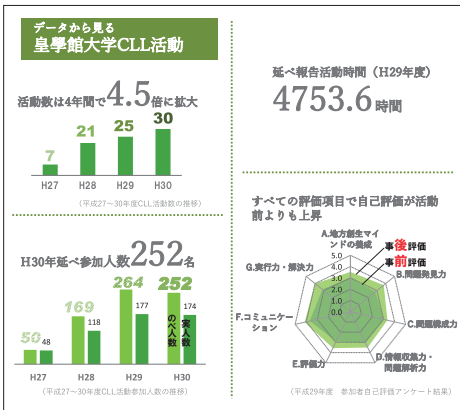
テビツチさん(ラトビア)は「ラトビアの宗教と神道は非常に似ており、前から伊勢に來たかった。式年遷宮や祭祀のプロセスなど現地でないとは分からないことをたくさん学べた」と満足そうだった。佐野真人助教は「伊勢や神道の歴史・文化を正しく理解してもらうきっかけになった。また毎日SNS等で発信をしてもらい、伊勢の魅力の情報発信にも有意義だった。このプログラムは未来への種まきのようなもの。参加者が将来研究者になったとき、彼らが次世代へ日本文化を伝える役割を担うことで日本に関心を持つ人が増えていけば」と語った。

本学学生約二十名がサポーターとして協力した。プログラムは、伊勢の歴史や民俗、神道や神宮の歴史などを学ぶ座学と、神宮や河崎、二見、朝熊山などを実際に訪れ、現地案内人や地元住民と交流しながら学ぶ実地学習で構成されている。最終週の三月七日には成果発表会を実施した。遷宮の御用材が再利用される過程が印象的だったという理由から「御神木」をテーマにした発表や、自国の宗教と神道の共通点を紹介した発表、伊勢志摩の持続可能な観光を提案するものなど様々な切り口からの考察があり、聴講した本学教職員や学生、伊勢市職員、市民らとも活発な質疑や意見交換が行われた。



「神道について学べ有意義な時間を過ごせた」と話すエリザヴェタさん(左)とウギスさん

Regional Collaboration 地域連携



オーディエンス賞を受賞した「広報いせ」特集記事制作プロジェクトに3月28日、伊勢市から感謝状が贈られた。

同プロジェクトは「若者に読んでもらえる『広報いせ』を」と伊勢市から呼びかけがあり発足。学生5名がメンバーとなり企画立案から取材、原稿作成、撮影、レイアウトまで一連の作業を手掛けた。玉津由梨さん(コ3)は「市外出身なので、取材を通して今まで知らなかった伊勢の魅力に触れることができた」と語り、湊裕太さん(現3)は「僕ら世代に手に取ってもらえるような表紙を柔らかいイメージにし、お得なクーポン購入割引券付きにした。社会実験中の市内循環バスの便利さも感じてもらえると思う」と胸を張った。

同プロジェクトが手掛けた「広報いせ4月1日号(No.256)」は伊勢市役所や公共施設のほか、本学でも配布された。市のホームページでも閲覧できる。

「広報いせ」特集記事制作プロジェクトメンバー

文部科学省が推進する平成二十六年「地知」の拠点整備事業」に採択され、以降、自治体と連携して地域活性化・再生につながる取組みを全学的に実施してきた本学。三月二日、同事業最終年度である平成三十年度のCLL活動報告会が六二二教室で行われ、関係者を中心におよそ六十名が集まった。

会の冒頭、齋藤平教育開発センター長は四年にわたるCLL活動の成果を報告(左図参照)。初年度五十名だった参加人数が平成三十年

度は二五二名、活動数も四・五倍に増加したと説明した。その理由として齋藤センター長は「現実にある課題に取り組んだ」点を挙げ、「切迫した問題だからこそ学生も真剣に考え、周囲の大人も本気で支えた」ことが充実した活動につながったのではと話した。

続いて八つのプロジェクトの代表者が登壇。地域の課題を「見える化」するワークショップを開催した「TMKミライデザインプロジェクト(玉城町下城田

四年間で参加人数が五倍に 平成三十年度 CLL 活動報告

平成三十年度 CLL 活動報告



「広報いせ」特集記事制作プロジェクトメンバー

天皇陛下御即位記念

即位礼と大嘗祭

佐川記念神道博物館特別展を開催

佐川記念神道博物館では、天皇陛下御即位を記念し、特別展「即位礼と大嘗祭」を開催している。

資料を中心とした展示を通して、多くの方々に御理解いただきたく、本展覧会を開催する次第である。

平成三十一年四月三十日、第一二五代天皇であられた上皇陛下よりの御譲位を受けられ、令和元年五月一日に天皇陛下が第一二六代の天皇として御踐祚（御即位）になられた。御譲位は文化十四年の光格天皇の御譲位以来二〇二年ぶりのことである。本年の秋には、即位礼正殿の儀（十月二十二日）、大嘗祭（十一月十四日夕刻から十五日未明）が行われる。皇位継承の中でも最大の重儀である「即位礼」と「大嘗祭」について、本学に所蔵されている貴重な

今回の特別展は、前期展「即位の御儀―皇位継承のすがた―」（五月三十一日～八月三十一日）と、後期展「大嘗祭―今に伝わる古の祭儀―」（十月一日～十二月二十一日）の二期に分け開催する。前期展は、各時代の情況に適応させつつ皇室の伝統と即位儀礼の根幹を尊重した即位礼の歴史について、儀式の変遷をわかりやすく伝える展示となっている。後期展は、古代以来連綿として受け継がれている大嘗祭について、資料より読み解ける

大嘗祭に関する儀式の流れにそって展示する予定である。

なお、前期展では故・小原利康氏が一代で蒐集した御大礼に関する一大コレクション「小原家文庫」（当館寄贈資料）を中心に展示するほか、期間限定の入替展示を行う予定である。即位礼に関する貴重な資料が一堂に揃う当展覧会に、ぜひお越しいただきたい。

前期展

即位の御儀―皇位継承のすがた―

◆「東山天皇御即位式・靈元上皇御譲位行列図屏風」（個人蔵／神道博物館寄託）

特にご注目いただきたい貴重な資料である。六曲一双の本屏風の右隻には、貞享四年（一六八七）四月二十八日に内裏の紫宸殿において挙行された東山天皇の即位式が、左隻には、東山天皇へ譲位された靈元太上天皇が貞享四年三月二十六日に仙洞御所へ移徙（遷幸）された様子が描かれている。本屏風は、前田綱紀の命で元禄期頃に狩野景信（伯圓）が描いたと推定される。金地に描かれている本屏風の雅さを、ぜひ間近でご覧いただきたい。

◆「東山天皇御即位式之図」（小原家文庫）

東山天皇の即位式を描いた大判の絵図である。即位式における天皇の高御座までの行幸・遷幸路、公卿の座と姓名、庭上の参役者の位置と姓名、香炉などの調度品の位置が詳細に描かれ、起こし絵となっている。

◆「大嘗祭由加物雜器私図」（加藤隆久氏蔵）

※前期・後期展にて展示
本図は、本展覧会のために特別に御貸しいただいた資料である。文政元年（一八一八）の仁孝天皇大嘗祭の調度や大嘗宮などを描いたものに、

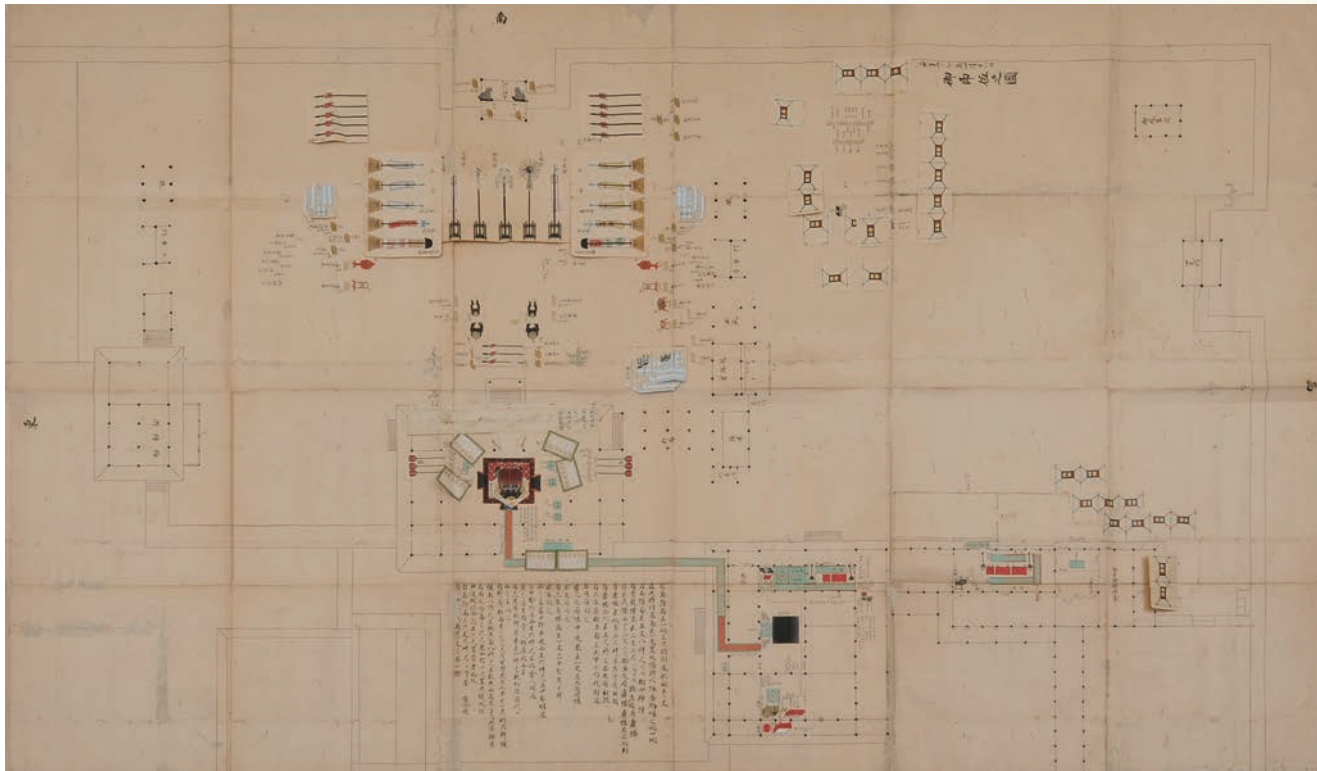
嘉永元年（一八四八）の孝明天皇大嘗祭の大嘗宮絵図を加筆したと推定される。特に、大嘗宮・悠紀殿・主基殿に舗設される神座の畳の重ね方や、廻立殿や悠紀殿の殿内の様子が、今日残されている他の絵図よりも詳細に描かれており、大変貴重な資料である。

◆「大正天皇御即位式絵図」（個人蔵）

大正四年（一九一五）十一月十日に挙行された、大正天皇即位式の様子を描いた絵図である。紫宸殿の中央には高御座に出御した天皇の姿、南階を昇る内閣総理大臣の大隈重信、建礼門外には近衛騎馬隊の姿が描かれている。



大正天皇御即位式絵図



東山天皇御即位式之図

前期展は
8月31日まで開催

入館無料

開館時間

平日 9:30～16:30(入館は16:00まで)
土曜日 9:30～12:30(入館は12:00まで)

6月、7月の休館日

【6月】2日、16日、23日、30日【7月】7日、21日、28日
その他、臨時開館日、開館時間変更日あり

詳細は当館ホームページを参照ください。<http://kenkyu.kogakkan-u.ac.jp/museum/>

高
校

高大連携で実験授業を実施

本校では学園としてのスケールメリットを生かし、高大連携授業を積極的に進めている。昨年度は教育学部の中松豊教授率いる生物学ゼミのゼミ生らを中心にTA(ティーチング・アシスタント)として加わってもらい、計16回の実験授業を実施した。



TAの学生が見守る中、集中して実験する生徒

授業ではアワヨトウを用いた食作用のほか、中和滴定やウニ受精の実験を行った。本校生徒にとっては教科書のみの授業に比べわかりやすく実感を伴った理解となり、学生にとっても将来教員等をめざす上で教材の有効性や生徒の反応を直に確認できる有意義な時間となったようだ。

実験の重要性を認識しながらも必要な器具を整備できない等の問題から実施していない高校は多い。本校では生徒からの要望も踏まえ、今年度も継続して高大連携授業を行っていく予定である。

対面式で全校生徒が一堂に

暖かい春の光が差し込んだ4月12日、千人を超える全校生徒が一堂に会し、対面式が行われた。新



新入生代表の落合さん

入生 336 名を代表して挨拶した落合美緒さんは「全てが

目新しい。先輩方にいろいろ教えもらい、早く高校生活に慣れたい」と語り、これから始まる学校生活への期待に胸を膨らませた。3年生で校友会総務委員長を務める大東海晴さんは「皇學館高校はとてもよい学校なので、皇高生としての自覚を持って、勉強やクラブ活動に一生懸命取り組んでほしい」と新入生を激励した。

快晴のもと、春の遠足を実施

4月16日、雲一つない青空のもと春の遠足が行われ、1年生は愛知県の明治村、2年生は京都散策、3年生はナガシマスパーランドへ出かけた。

1年の布目葉月さんは「明治時代のレシビを再現したカレーパンのほかオムライスやパフェを食べ、当時の味を堪能した」と言い、文明開化の雰囲気を楽しめたようだ。2年の堀出萌



京都散策(2年)

絵さんは「事前リサーチのおかげで充実した行程になった」として、計



犬山市の明治村にて(1年)

画性や規範意識を磨けたことで修学旅行の準備につながったと話した。3年の山口美穂さんは「最後の遠足は楽しくてあっという間に過ぎてしまった」と振り返り、みんなとの時間を大切に、この1年間に有意義にしたいと語った。

昨年度を大きく上回る参加者

「みえこども学びプロジェクト」を開催

3月24日の日曜、大学・高校・中学の各校舎にて、昨年度に続き2回目となる「みえこども学びプロジェクト2019」が開催された。このプロジェクトは県内の小学4年生から中学3年



楽しい雰囲気の中で行われた幼児教育学

生の児童生徒を対象に、本学の実際の教育を楽しく体験してもらい、普段の学校の授業では経験できない、新たな学びを発見してもらおうとするものである。

当日は中條敦仁准教授が「ことば」という記号について考え、国語の実験をする『国語教育学』を、片山靖富准教授は体脂肪率を測定し、体組成のしくみについて知る『スポーツ科学』を、また梶美保准教授はバルーンを活用し、子どもが楽しく過ごす空間を考える『幼児教育学』をそれぞれ開講した。伊勢市内を中心に県内各地から昨年度を大きく上回る児童生徒が参加した。

参加した児童からは「知らなかったことがたくさんあり、今日は勉強できてよかった」「とてもわかりやすく教えていただき、次回もまた来たいと思った」などの感想が寄せられた。授業を見学した保護者の方からも「とても面白かった。なぜ?なんで?と、子どもたちが興味を持つきっかけになったと思う。先生の表現が豊かで、見ている私も楽しめた」等、高く評価していただいた。今後も地域のこどもたちの学びに貢献していければと思う。

皇學館中学校入試広報部長 山形達哉

中
学
校

カナダ文化に触れた10日間

カナダ語学研修

春

休み中の3月20日から30日にかけて、17名がバンクーバーでのカナダ語学研修に参加した。研修中は語学の授業以外にもスタンレーパークでの散策や聖火台見学、カーリング体験、ドリームキャッチャーづくりなどカナダ文化を



スタンレーパーク、トートেমポール前にて

満喫した参加者。24時間、英語のみの環境は最初こそ戸惑いはあったものの徐々に慣れ、バディと笑顔で会話したり、後半にもなると伝えたい内容を堂々と英語で話す姿が見られた。以下に参加者の感想を抜粋して紹介する。

- この10日間で英語をものすごく話せるようになったというわけではないが、自信がついた。これからも勉強を頑張りたい。
- バディや友だちと一日中、充実したコミュニケーションをとったり買い物をしたりと、濃厚な思い出ができて本当によかった。
- 人種や国を超え、触れ合うことの素晴らしさを改めて知った。
- 日が経つにつれどんどん英語がわかるようになり、意欲的に取り組めた。
- 不安もあったがホストファミリーが笑顔で迎え入れてくれたおかげで緊張がとけた。本当に楽しく、貴重な経験となった。

皇學館中学生としての一步を踏み出す 対面式・オリエンテーション

4月9日(火)に対面式が行われた。新入生30名にとっては先輩との初めての対面とあって緊張しながらスタート。しかし、校友会歓迎の挨拶や「この先生は誰でしょうクイズ」で先輩に場を盛り上げてもらい、新入生は徐々に和やかな雰囲気となっていった。12日までの4日間でオリエンテーションを実施し、学習や生活についてのきまりや取り組み方を学び皇學館中学生としての一步を踏み出した。またオリエンテーション最終日には神宮参拝を実施した。生徒は日頃の感謝とこれからの誓いを思いながら、一步一步玉砂利を踏みしめ、参道を進んでいた。



新入生代表の内田さん

日頃の学習の成果を発揮 英語で伊勢ガイドツアー

2月28日(木)に内宮、おはらい町にて『英語で伊勢ガイドツアー』を実施した。今回は、11月に実施されたシンガポール・マレーシア修学旅行で現地の大学生に街を案内してもらった経験を生かし、地元伊勢の文化や歴史を3年生38名が留学生にガイドした。

当日はあいにくの雨となったが、1グループ5~6人で留学生1人を案内した。まず参集殿で自己紹介をした後、内宮をガイド。手水の作法や神宮の歴史など各ポイントで担当者が英語による説明をした。午後からはおはらい町にて伊勢うどんやてこね寿司などの伊勢名物を食べ、留学生に伊勢の食文化などを堪能してもらった。4時間とい

う短い時間ではあったが、生徒には英語でコミュニケーションをとろうという姿勢や態度が多く場面みられ、貴重な体験ができた1日となった。事後アンケートでは「臨機応変にセリフを替えたり、付け加えるなど上手く説明できた」「会話の中で海外の文化・風習の違いを知ることができた」「授業でのオンライン英会話などで外国人と接することが初めてではなかったので今回のガイドツアーでも慣れるのに時間はかからなかった」などの感想があり、日頃からの学習が今回の体験に役立っていることが実感できた日でもあった。



手水舎での作法を英語で説明

教学振興会 寄付者芳名

ご挨拶

学校法人皇學館理事長 佐古 一 冽

平素より本学園の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。

さて、教学振興会につきましては、平成三十年度におきましても、多くの方々のご入会、ご支援をいただき、改めまして皆様方のご芳志に対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

教学振興会では六つの柱を基軸に今年度も我が国の歴史や伝統に根ざした学び、海外研修や留学等のグローバル人材育成、産官学連携事業を通じた地域人

材養成など、全学一体となつて生徒・学生への修学支援、研究機関としての拡充に努めてまいりました。これもひとえに皆さま方のお力添えによる賜物と感謝申し上げます、更なる本学園への期待に添えるよう、鋭意努力いたす所存でございます。

ここに平成三十年度にご入会いただきました皆様方のご芳名及び寄付金納入状況をご報告させていただきます。

今後とも「教学振興会」への温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成三十年度ご入会者芳名

宗教界

青森県

宗教法人櫛引八幡宮様

企業

三重県

伊勢外宮前クリニック様

館友

北海道

本間 后様

宮城県

高橋 美由紀様

秋田県

清水 さよ様

福島県

丹治 政文様

茨城県

野瀬 幸子様

千葉県

西田 日向子様

東京都

梅原 三知寛様

神奈川県

堀井 純二様

新潟県

山崎 孝幸様

石川県

高山 伊奈里様

福井県

西村 英之様

岐阜県

上村 修広様

後藤 節正様

辻 道代様

静岡県

楠林 正将様

清水 良真様

愛知県

安藤 和司様

入江 明様

岩田 昇悟様

笠井 剛様

畔柳 吉生様

徳田 勝二様

徳永 尚子様

鳥羽 元枝様

永井 隆満様

伊藤 藤陽子様

海野 亮太様

加藤 聡子様

北村 正子様

木原 和子様

倉田 智子様

杉本 由華様

高尾 智大様

中村 真千様

橋本 満幸様

波多瀬 秀之様

原 忠照様

廣岡 俊哉様

宮本 伸基様

森 誠喜子様

森 喜佐子様

山本 剛様

山路 英美様

和田 直樹様

滋賀県

城戸 重臣様

京都府

海部 綸子様

安田 光宏様

伊藤 陽子様

海野 亮太様

加藤 聡子様

北村 正子様

木原 和子様

倉田 智子様

杉本 由華様

高尾 智大様

中村 真千様

橋本 満幸様

波多瀬 秀之様

原 忠照様

廣岡 俊哉様

宮本 伸基様

森 誠喜子様

森 喜佐子様

山本 剛様

山路 英美様

和田 直樹様

江尻 久仁子様

江尻 銘保子様

江尻 ひでみ様

富田 展美様

福井 規雄様

岡本 章様

櫃田 脩介様

岡山県

谷村 昌枝様

山口県

廣田 正様

愛媛県

小野 左知代様

福岡県

大野 彰様

坂口 敏彦様

熊本県

船原 大様

大分県

甲斐 素純様

楠田 一盛様

土谷 公彦様

岩城 隆宏様

近藤 安生様

和歌山県

江尻 久仁子様

江尻 銘保子様

江尻 ひでみ様

富田 展美様

福井 規雄様

岡本 章様

櫃田 脩介様

岡山県

谷村 昌枝様

山口県

廣田 正様

愛媛県

小野 左知代様

福岡県

大野 彰様

坂口 敏彦様

熊本県

船原 大様

大分県

岩城 隆宏様

近藤 安生様

和歌山県

江尻 久仁子様

江尻 銘保子様

江尻 ひでみ様

富田 展美様

福井 規雄様

岡本 章様

櫃田 脩介様

岡山県

谷村 昌枝様

山口県

廣田 正様

愛媛県

小野 左知代様

福岡県

大野 彰様

坂口 敏彦様

熊本県

船原 大様

大分県

岩城 隆宏様

近藤 安生様

和歌山県

江尻 久仁子様

江尻 銘保子様

江尻 ひでみ様

富田 展美様

福井 規雄様

岡本 章様

櫃田 脩介様

岡山県

谷村 昌枝様

山口県

廣田 正様

愛媛県

小野 左知代様

福岡県

大野 彰様

坂口 敏彦様

熊本県

船原 大様

大分県

岩城 隆宏様

近藤 安生様

和歌山県

江尻 久仁子様

江尻 銘保子様

江尻 ひでみ様

富田 展美様

福井 規雄様

岡本 章様

櫃田 脩介様

岡山県

谷村 昌枝様

山口県

廣田 正様

愛媛県

小野 左知代様

福岡県

大野 彰様

坂口 敏彦様

熊本県

船原 大様

大分県

岩城 隆宏様

近藤 安生様

和歌山県

江尻 久仁子様

江尻 銘保子様

江尻 ひでみ様

富田 展美様

福井 規雄様

岡本 章様

櫃田 脩介様

岡山県

谷村 昌枝様

山口県

廣田 正様

愛媛県

小野 左知代様

福岡県

大野 彰様

坂口 敏彦様

熊本県

船原 大様

大分県

岩城 隆宏様

近藤 安生様

和歌山県

江尻 久仁子様

江尻 銘保子様

江尻 ひでみ様

富田 展美様

福井 規雄様

岡本 章様

櫃田 脩介様

岡山県

谷村 昌枝様

山口県

廣田 正様

愛媛県

小野 左知代様

福岡県

大野 彰様

坂口 敏彦様

熊本県

船原 大様

大分県

岩城 隆宏様

近藤 安生様

和歌山県

江尻 久仁子様

江尻 銘保子様

江尻 ひでみ様

富田 展美様

福井 規雄様

岡本 章様

櫃田 脩介様

岡山県

谷村 昌枝様

山口県

廣田 正様

愛媛県

小野 左知代様

福岡県

大野 彰様

坂口 敏彦様

熊本県

船原 大様

大分県

平成30年度 教学振興会寄付金納入状況報告

平成31年 3月31日現在

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	273	24,855,000	20,165,000
企業	29	1,480,000	1,220,000
館友	720	8,647,000	6,451,000
専の会会員	462	2,970,000	2,125,000
高等学校者	120	785,000	580,000
中等学校者	32	330,000	240,000
一般(篤志家等)	6	185,000	165,000
本法人関係	223	2,442,500	2,197,500
合計	1,865	41,694,500	33,143,500

専の会会員

神道学科

池田 美新二様

伊藤 高繁様

伊藤 友修様

伊藤 己修様

岩田 昇悟様

牛場 悟様

内田 巧様

大澤 則様

太田 博秀様

加藤 征博様

田口 藤之様

竹下 貴博様

田中 美代子様

千蔵 まさ子様

辻 誠様

アクティブ スチューデント

Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

「教育学部の伝統を絶やしたくない」 ミュージカル成功に向け、**学生有志**が“一致協力”

教育学部伝統の卒業記念ミュージカルが三重県総合文化センター(津市)で3月3日、本学記念講堂(伊勢市)で3月9・10日に開催され、延べ2千人の入場者を魅了した。33回目となる今年度の演目は「ショウとヒカリの大冒険」。毎日ケンカばかりしているショウとヒカリが力をあわせ、夢の国を救うオリジナルストーリーだ。主人公・ショウと実行委員長という2つの大役を務め上げたのは竹谷紅葉さん。開催にこぎつけるまで様々な困難に直面したが、最も苦労したのが人集めだという。「当初集まったのは30人ほど。そこで、OBOGの方にミュージカルに参加してよかった点を聞き取りしチラシにまとめて配布したり、こまめに声をかけました。また4年生になっていきなり携わるのはハードルが高いとの意見が多かったので、3年

生にボランティアとして加わってもらったことも初めての試みです」。

呼びかけのおかげで、参加人数も当初より増えたとはいえ、それでも足りない人手……ピンチを救ったのは、ミュージカルに込められたメッセージでもある“仲間の協力”だ。たくさんのメンバーがそれぞれの個性や特技を生かし、いろんな部署を掛け持ちした。その過程で「連絡」の大切さを痛感した竹谷さんは、ニュアンスの違いや誤解が起きやすいメールや伝聞ではなく、できるだけ対面で伝えるよう心掛けたと話す。日を追うごとに最初は何も発言しなかったメンバーが話すようになったり、しっかり自分の意見を述べるようになったとも言い、「ミュージカルを通し



ミュージカルを通して学んだ協調性の大切さを教員の仕事に生かしたいと話す竹谷さん

てみんなのコミュニケーション力が高まったと思います」と語った。そうして創り上げたミュージカル。津市からやってきた親子は「激しく動きながら生歌を披露するなど本格的な舞台で驚きました」、鈴鹿市の親子は「知っている歌が使われていて娘が嬉しそうに口ずさんでいました」と好感を持ったようだ。「大変でしたが、やっぱりやってよかった」と笑顔で語る竹谷さん。「先輩方が築いてきた教育学部伝統のミュージカル。今回ボランティアに加わってくれた3年生が中心になって繋いでくれたら嬉しい」と後輩に託した。

尾西永遠^(教2)さんがeスポーツで世界大会へ

教育学科2年の尾西永遠さんが平成31年4月30日から令和元年5月2日にかけて中国・上海で開催されたeスポーツの世界大会「『Identity V(第五人格)』CALL OF THE ABYSS II ワールド決勝トーナメント」に日本チームメンバーとして参加。賞金約1600万円と“ワールドチャンピオン”の称号をかけ、熱い戦いを繰り広げた。

同ゲームはプレイヤーがサバイバーとハンターに分かれて戦う非対称型対戦ゲーム。サバイバーはマップのどこかにある暗号機を解読して脱出ゲートを開き、3人以上脱出するのがミッションだ。サバイバーの時はハンターから身を隠したり、暗号機を解読したり、負傷したメンバーを治療したりと、互いに協力しゲームを進める。尾西さんらはオンライン上でチームを結成し、平成31年2月

22日・23日の日本地区大会で準優勝。世界大会出場への切符を手に入れた。チーム5名で臨んだ世界大会ではアメリカチームを相手に惜しくも一回戦敗退となったが、「ネット上でしか知らなかった人と実際に会い、協力し合って優勝をめざし頑張れた」と笑顔で語る尾西さん。現在硬式野球部員としても活動しており、「野球と変わらないほどチームワークが必要」と話す。「eスポーツも立派なスポーツ。これから情報化、IT化が進む中でeスポーツは益々盛んなものになる。次、大会があればぜひ出場したい」と意気込みを見せた。



尾西さん

三十三FGビジネスプランコンテストで、現日の**森麻帆**さん・**杉村真子**さんが優秀賞、**木下雅都**さんが佳作賞を受賞

「三十三FGビジネスプランコンテスト2018」において現代日本社会学科3年の森麻帆さん・杉村真子さんが優秀賞、同学科4年の木下雅都さんが佳作賞を受賞した。

森さんは日頃から防災意識を高めてほしいと「ウキウキ(浮き浮き)リュック」を杉村真子さんと共同で考案。生地は市販のライフジャケット、上部の開閉部分はエアバッグとなっており、落下物から頭を守ったり、津波の際は浮き袋として活用できる。「大学生テレビ局の活動で熱心に防災に取り組む地域を取材したことがアイデアのきっかけ」と森さん。将来は市の職員をめざしており、住民が防災についての正しい知識を楽しみながら学べ、きちんと備えられるようイベントや講座を企画したり、防災グッズを開発したいと意欲を語った。

木下さんは“楽しむ”“成長”をコンセプトに子どもの目線に立った野球塾や野球大会の開催を提

案した。昨今、監督やコーチなど指導者によるパワハラが問題化している。木下さんは自身がスポーツ界に長く身を置いてきた経験から、勝利を絶対視する風潮にあるのではないかと危惧。野球界、スポーツ界のよりよい未来のためにも今できることに地道に取り組み、偏った考えを変えていきたいと話した。

「大勢の人前で話したり、物事を多角的にとらえる大切さに気付いたり、コンテストへの出場を通してかつてない体験ができた」と語る森さんと木下さん。将来につながる貴重な経験となったようだ。



左から木下さん、森さん、杉村さん

高校家庭部「**伊勢志摩っ娘**」が グルメ甲子園で優勝!

2月10日に開催されたUME-1フェスタ in 梅の里みなべ「第4回グルメ甲子園」に高校家庭部の山口美穂さん、山川瑠乃さん、仲田衣里さん、東咲帆さんが



左から山川さん、東さん、山口さん、仲田さん

「伊勢志摩っ娘」として出場。カリカリ梅を具材にした春巻き、その名も「春さきどり! うめえ〜パリパリスティック」で見事頂点に輝いた。

「若者が考えるうめえ(梅)レシピ」を競うこの大会には和歌山県や大阪府などから一次審査を通過した10校が参加。①おいしさ、②独創性、③接客を基準とした審査委員評価に来場者の購入状況を加味し、審査される。一人でも多くの人に食べてもらいたいと試行錯誤した結果、食べ歩きにぴったりのスティック状にたどり着いたというこだわりの春巻きは、豚バラ肉とチーズのкок、カリカリ梅と千切りキャベツの食感、梅と生姜の風味、皮から透けて見える梅の色…と五感で楽しめる一品に。4人は「声を出して楽しみながら販売していた団結力や接客力も評価されたのでは」と振り返る。また、商品を売る側に立った責任感や協力することの大切さ、食品ロスにまで考えをめぐらせたと言ひ、大会を通して多くを学んだようだ。今後は「新しいことに積極的にチャレンジしていきたい」と4人。これからの活躍に期待したい。



梅の色が透けて彩り華やかな春らしい一品

●共催講座『古事記』を読む／安藤天皇 白山芳太
●海外インターナショナルシップ(マレーシア) s24日

研究開発推進センター トピックス

平成二十五年四月に発足して以来、地域の知の拠点としての役割にさらなる期待がかかる「研究開発推進センター」。平成三十年度の活動を報告します。

神道研究所

大嘗祭に秘儀は存在せず——公開学術講演会を開催

公開学術講演会「大嘗祭—天皇祭祀権と在地性—」岡田莊司 國學院大學教授が、平成三十年（二〇一八）六月二十七日（水）、本学四号館四三一教室で開催され、一七〇人が参加した。

岡田教授は、古代から現代へ神道が継承されてきた五つの理由のうち、「国家・天皇祭祀論」と「地域・氏族祭祀論」が古代祭祀を構成する要素とした上で、大嘗祭においても、「天皇祭

神に対して神饌を御親ら供せられることが最も重要な所作であるとし、「戦後から唱えられている秘儀は存在していない」と講じられた。

この講演の内容は、「皇學館大学研究開発推進センター紀要」第六号に収録予定である。

鈴木重胤研究者が集結——公開学術シンポジウム

公開学術シンポジウム『鈴木重胤翁の人と事蹟』が、平成三十年（二〇一八）十二月二十二日（土）、本学佐川記念神道博物館講義室で開催され、三十一人が参加した。

鈴木重胤は、淡路国津名郡仁井村（現：兵庫県淡路市仁井）の庄屋に生まれ、嘉永・安政年間にかけて『延喜式祝詞講義』『日本書紀伝』の著述に努めたが、『日本書紀伝』は未完成のまま江

戸小梅の自宅で遭難し暗殺された。本学においては、谷省吾先生の研究をはじめ、神道資料叢刊九「鈴木重胤紀行文集」（一、四）を刊行しており、平成三十年三月には、関係資料を代々保管されてきた大瀧直之助氏の御厚意により、重胤自筆の書籍・書簡類一五三四点を「羽前大瀧家伝来 鈴木重胤先生関係資料」として寄贈を受けた。本会では鈴木重胤研究に携わる本学研究

史料編纂所

公開講座・古文書講座を開催

まずは、平成三十年九月二十二日に開催された、恒例の公開講座の話題から。編纂所では、以前から三重県の考古学の先覚者・鈴木敏雄氏の旧蔵資料の整理・研究を進めているが、今年度は、これに因んで、福井県埋蔵文化財センター元所長の中司照世先生に、「三段築成の古墳とその背景—大王一族とその姻族墓を探る—」というタイトルで講演をお願いした。伊勢・伊賀地方の古墳にも言及していたので、伊勢在住の聴衆も、熱心に聞き入っておられた。



公開講座の中司先生のご講演

「移りゆく皇學館—倉田山移転百年記念—」

第四回 十一月二十五日（土）

講師 千田良仁先生
本学教育開発センター准教授

博物館学芸員課程を履修する本学四年生による「卒業展示」。今年度は皇學館が宇治館町から現在地・倉田山に移転して百年を迎えたことから、「移りゆく皇學館—倉田山移転百年記念—」

と題して、十月二十七日（土）から十一月二十四日（土）まで開催。倉庫祭（十月二十七日・二十八日）および最終日には、学生による展示解説も行われた。

また、こうした講演会のほかにも、編纂所では「日本後紀史料」の稿本作成を継続するとともに、長年かかわってきた福嶋御塩焼大夫関係文書についても、続刊「神宮御師資料」第九輯、福島信悟氏所蔵文書を収録予定の出版に向け、その準備を進めた。

なお、研究開発推進センターの「大平和典・佐野真人両氏の協力も得て、本学の所蔵となった鈴木重胤『日本書紀伝』の自筆稿本の研究がはじまったことを附言しておく。

佐川記念神道博物館

「伊勢学事始Ⅰ—教養講座—」を開催

佐川記念神道博物館教養講座は、平成三十年度より「伊勢学事始」と題して、伊勢とその周辺の歴史・文化・地域性等をテーマに開催している。

神道博物館は、神道に関する資料とともに、伊勢を中心とする郷土資料についてもその収集・保管・調査・公開を行っており、伊勢歌舞伎関係資料や考古遺物を常設展示し、本講座でもたびたび伊勢に関するテーマを取り上げてきた。また、本学においては、神宮をはじめとする伊勢に関する研究は大きな柱で、授業としても全学必修科目「地域文化論」「伊勢学」そして現在の「伊勢志摩共生学」へと展開しており、地域社会に根ざした人材育成に貢献している。

そこで「伊勢学事始」の第一

「伊勢」といってなに？

講師 齋藤 平先生
本学教育開発センター長・文学部教授

第二回 六月二十三日（土）
五十四名受講
「地域資源としての伊勢周辺の自然環境」

講師 近藤玲介先生
本学教育開発センター准教授

第三回 十月二十日（土）
三十名受講
「伊勢志摩から考えるこれからの地域コミュニケーション」

令和元年度 教養講座のご案内

テーマ 伊勢学事始Ⅱ

第1回 5月25日（土）
古事記・日本書紀から知られる天照大御神と伊勢神宮
講師 ●大阪市立大学名誉教授・前皇學館大学教授 毛利正守先生

第2回 6月22日（土）
伊勢地方に生育する種子植物のルーツについて
講師 ●元 皇學館高等学校教諭 伊藤千鶴先生

第3回 10月19日（土）
伊勢神宮と東大寺
講師 ●本学文学部教授 多田實道先生

第4回 11月23日（土）
「憲政の神」尾崎行雄と伊勢
講師 ●本学アドミッション・オフィス教授 田浦雅徳先生

時間 ●午後 2:00～
会場 ●皇學館大学 佐川記念 神道博物館講義室
定員 ●各60名（定員になり次第締め切ります）

参加費無料
申込方法
電話またはご来館の上、直接お申し込み下さい
皇學館大学 佐川記念 神道博物館
☎0596-22-6471

「皇學館大学研究開発推進センター紀要」第六号に収録予定である。

●月例文化講座⑧（伝統産業資源から見た伊勢神宮の魅力）新田均（現日教授）
●共催講座（古事記）を読み解く／仁賢天皇（宣化天皇）白山芳太郎（神道・教授）
●月例神宮参拝
●共催講座 1日：短期講習会（『日本書紀』を読む／景行天皇②）大島信夫（国文・教授）
●三重大学・皇學館大学合同シンポジウム
●教育学会議（ひろみちとたにぞう）
●第54回現代日本塾（出雲神話を読みなおす／制圧されるオホクニナシ）三浦佑之先生（千葉大学名誉教授）
●共催講座（神道と仏教）苗木藩における神仏習合と神仏分離（河野訓 神道・教授）
●研究開発推進センター神道研究所公開学術シンポジウム（鈴木重胤翁の人と事蹟）

●月例神宮参拝
●鈴木健一伊勢市長講演
●共催講座（古事記）を読み解く／欽明天皇 白山芳太郎 神道・教授
●月例神宮参拝
●大学入試センター試験 20日
●山田やす子コミュニケーション学科教授退任記念講演会（異文化理解と相対化の難しさ）
●皇居勤労奉仕団結式
●第55回現代日本塾（フジエーション・リビングが拓く未来—地域創生と教育改革のツールとして—住ノ江修先生（一般社団法人センセワーク理事）児玉玲子コミュニケーション学科教授退任記念最終講義 言語能力と英語教育）
●専の会役員会
●共催講座（神道と仏教）神仏分離の全国への展開 河野訓 神道・教授
●出雲式

●天皇陛下御在位三十年奉祝式
●共催講座 1日：短期講習会（『伊勢参宮名所図会』を読む—瀬田の唐橋から矢橋—）岡野友彦（国史・教授）
●田浦雅徳国史学科教授退任記念講演会 政治外交史上からみた国際聯盟退治
●教 現・史・コミュニケーションワーク 3月9日
●共催講座（古事記）を読み解く／敏達天皇 白山芳太郎 神道・教授
●日本とイランの宗教対話会議—イスラームと神道—
●建国記念の日：神宮参拝
●共催講座 1日：短期講習会（『日本書紀』を読む／景行天皇③・成務天皇）大島信夫（国文・教授）
●海外インタナショナルシンポジウム（中国） 22日
●共催講座 1日：短期講習会（三國とその後の皇帝即位）堀内純一（国史・准教授）

●共催講座 1日：短期講習会（日本人の世界観）板東洋介（神道・准教授）
●教育学部卒業記念ミュージカル「シヨウとヒカリの大冒険」津公演
●教育学部卒業記念ミュージカル「シヨウとヒカリの大冒険」伊勢公演 10日
●白山芳太郎（神道・教授）
●共催講座（古事記）を読み解く／用明天皇（推古天皇）
●貞明崇徳増築竣工式・竣工式
●共催講座 1日：短期講習会（伊勢のしめ縄の系譜—木簡とまじない—）遠藤慶太（国史・教授）
●学位記・修了証書授与式（卒業式）
●共催講座（神道と仏教）伯耆大山における神仏習合と神仏分離（清水源水学長退任記念講演会 日本倫理思想史の一瞬—恩の思想の展開と近代化—）河野訓 神道・教授
●新入生登学日

高校

中学

●始業式
●第56回入学式
●対面式・1年生神宮参拝
●1年生オリエンテーション 16日
●1年生スタディーサポート
●3年生保護者対象進路説明会
●3年生進路ガイダンス
●創立記念日
●校友会総務委員会
●保護者会・後援会総会
●中間考査 18日
●校友会総会
●三重県高校総体 27日
●教育実習 6月16日
●1・2年保護者対象進路説明会
●公開授業①
●始業式
●入学式
●対面式
●1年生オリエンテーション 11日
●1年生神宮参拝・クラブ紹介
●3年生全国学力調査
●第1回実力テスト
●自然体験学習
●創立記念日
●保護者会・後援会総会 公開授業
●校友会総会
●中体連春季大会 20日
●中間考査 30日
●全校集会
●伊勢市連合陸上競技大会
●教育実習 30日

皇學館の
来歴

21

神宮皇學館大學の展開

予科・附属専門部・学部

皇學館大學名誉教授 渡 辺 寛

一、予 科

昭和十五年（一九四〇）四月三十日、入学式及び開学式に続いて、予科新入生全員六十三名は精華寮に入寮、翌五月一日予科の授業が開始された。

当時の高等学校及び大学予科は、大学に進学するに須要なる高等普通教育の完成を目的としていた。文科と理科の二科に分かれるも、外国語の習得が重視され、第一外国語を英語とするを甲類、独語は乙類、仏語は丙類と称されていた。本学の予科は文科乙類、その学科課程は、高等学校規程に準拠して左の如くであった。

学科／学年	一年			二年			三年		
	修身	国語	漢文	英語	歴史	地理	哲学概論	心理論理	法制経済
修身	2	3	3	3	3	2			
国語	3	3	3	3	5			2	
漢文	3	3	3	8	4				
英語	3	3	3	8	4				
歴史	3	3	3	5	4				
地理	3	3	3	5	4				
哲学概論	3	3	3	7	4				
心理論理	3	3	3	7	4				
法制経済	3	3	3	7	4				
自然科学	3	3	3	7	4				
数学	3	3	3	7	4				
体育	3	3	3	7	4				
(計)	34	34	34	34	34	34	34	34	34
毎週時間数	34	34	34	34	34	34	34	34	34

※修身(神道、実践道徳、国民道徳) 国語講読、文法、作文、文学史、作歌、漢文講読、独語講読、文法、作文、英語講読、文法、歴史(国史、東洋史、西洋史)、心理論理(心理学、論理学)、法制経済(法学通論、経済学通論、体操、武道)

修身の授業内容に毎週一時間

神道が講ぜられていたところが他校にはない皇學館的ではあったが、外国語が全体の三分の一以上を占める授業は、国語漢文・歴史・神道が大部分を占める専門学校としての神宮皇學館本科のそれとは大きく異なる。特に第一外国語の独語は毎週八時間、一年生修了時には原書の読み書きができるレベルを要求していたというから大変である。これがため欠点落第者続出、三年後（実際は戦時の文部省訓令により半年短縮）の学部進学時には六十三名が三十八名になっていた。とはいえ予科生は全員自治の灯赤き精華寮生、その日常は猛勉と読書のなかにも徹夜に及ぶ談論風発、ときにはいやしばしば奮力ラなストーム、二本の白線帽にマントを翻して山田の街を闊歩するのであった。

一、附属専門部

昭和十六年（一九四二）四月、神道に関する専門教育を為すを目的とする神宮皇學館大學附属専門部が開設された。神宮皇學館本科の神道科を継承するを意図したものであるが、山田学長はこの専門部主事と教授を兼務し、石村吉甫・原田敏明・新美忠之・伊藤正雄らの諸教授も本科から移り、神祇史・祭祀・法学・国文の中心となった。修業年限三年、定員四十名。四月二十一日入学式、四十三名が入学し二十三日より始業。その学科課程は、
第一学年 祭祀（神宮概説神社概説二、神社礼典二、一般礼典一、実践道徳一、神道史二、論理学心理学二） 政教(帝国憲法

皇室典範二、法学通論二、経済概説二、東亜史二） 古典(古典講読二、国語学国文法一、国文講読二、作文作歌一、漢文講読二、国史概説考古学三） 外国語(英語講読三) 訓練(武道一、教練二) 学科目の下の漢数字は毎週の授業時間数、以下同。

第二学年 祭祀(神宮史一、神社史一、神社礼典二、神社有職一、神道概論二、神道史二、哲学西洋倫理学三) 政教(国体論一、日本法制史二、宗教概説一、世界史二) 古典(古典講読二、国文学史一、国文講読二、祝詞作文作歌一、漢文講読二、国史概説古文書学三) 外国語(英語講読三) 訓練(武道一、教練二) 第三学年 祭祀(祭祀概論一、神社史一、神社礼典一、神社有職一、神道哲学二、現代神道一、東洋倫理学二) 政教(神社法令宗教法二、社会学一、宗教概説二、教育学三、現代史二) 古典(古典講読一、古典論一、国文講読二、祝詞作文作歌一、漢文講読二、国文学史二) 外国語(英語講読三) 訓練(教練二)

この外特別講義があり（日本文化講義として昭和十六年度は六月に東京帝国大学教授平泉澄博士の国史学、十月に前特命全権大使堀内謙介氏の現代外交論、翌一月に東京帝国大学名誉教授瀧精一博士の美術史。これには予科生、神宮皇學館本科三年生四年生も受講、さらにまた神社神道の実践面、雅楽の修得も重視され観月祭なども専門部生によって斎行された。全員清明寮に入寮し、その神殿を中心として確固たる神明奉仕の精神を養い、学行一如の教育が施さ



学部第一回入学式(昭和17年10月15日)

三、学 部

昭和十七年（一九四二）十月、神宮皇學館大學学部が開設された。祭祀・政教・国史・古典の四専攻よりなり、その学的内容(祭祀・国史・古典専攻には文学士、政教専攻には法文学士を授与)からみれば法文学部といえるが、本学では単に学部と称し、学科は専攻と称した。またこの学部の上に大学院にあたる研究

科も予定されていた。山田学長以下、小松泰馬(法学)、倉野憲司(古典学)、原田敏明(神道学)、喜田新六(史学)、新開長英(道徳学)らの諸教授が着任し、十月十五日、学部第一回入学式挙行。入学生は祭祀専攻十五名・政教専攻十五名・国史専攻十三名・古典専攻十五名、総計五十八名。その内訳は本学予科から三十八名、神宮皇學館本科卒業生十八名、大阪高等学校卒業生一名、京都帝国大学臨時教員養成所修了生一名であった。

祭祀・政教・国史・古典の四

専攻のもと、以下の十五講座、四十四の学科目が設定された。

講座名	学科目
祭祀学	祭祀概論、神祇制度史、祭祀、祝詞、礼典原論
神道学第一	神道概論、神道学、神道学演習
神道学第二	神祇史、神道史
国体学	国体原論、大日本帝国憲法皇室典範、政教原論
法制史	有職故実、日本法制史
法学第一	民法
法学第二	刑法、行政法、法学演習
経済学	経済原論、経済政策、経済学史、財政学
史学第一	国史概説、国史学、国史学演習
史学第二	東亜史学、世界史学、史学概論
古典学	古典概説、古典講読、古典演習、国学概論
文学第一	国語学、漢文学
文学第二	国文学
道徳学	道徳原論、東洋倫理学史、西洋倫理学史
思想史	日本思想史、東洋思想史、支那哲学、歴史哲学

この他講座外の選択科目として、教育学及教育史、宗教史、儒学、支那法制史、日本社会史、地理学、民族学、言語学、考古学、美術史、音楽史、建築史など十二の学科目も設定された。

この十二講座五十六の学科目は、神宮皇學館大學の構想する「皇學」の具体相とみてよいが、山田学長は、学部入学式の訓示において「本学は皇學の蘊奥を究め、學術の水準を高めると共に「皇學そのものに於て日本の凡ゆる学界を指導する責任がある」と学生と教官にきびしい研学を求めた。

(以下次号)

15日	●月次祭(神宮参拝) ●東海総体／愛知県 17日
2日	●期末考査 6日
6日	●校友会本部役員立会演説会
7日	●人権学習①
13日	●クラスマッチ①
17日	●クラスマッチ②
18日	●保護者懇談会 19日
20日	●夏季休業開始 8月30日
23日	●オーストラリア語学研修 8月5日
28日	●第13回皇學館中学校・高等学校英語スピーチコンテスト
31日	●1・2年特六学習合宿 29日
9月	●始業式 ●地震避難訓練
1日	●オープンスクールⅠ 2日
4日	●保護者会懇談会(3年) 7日
17日	●皇學館DAY
20日	●皇学祭 21日
28日	●体育大会
10月	●2年生修学旅行 6日
3日	●オープンスクールⅡ
13日	●中間考査 20日
16日	●神宮祭(休校日)
17日	●中部私学大会 19日
18日	●三重県私学大会
30日	●家庭に感謝する日
11月	●みえ高文祭 4日
2日	●公開授業②
8日	●校内実力テスト(1・2年)
13日	●ピンクシャッター 22日
18日	●オープンスクールⅢ
12月	●卒業・期末考査 7日
3日	●清掃ボランティア
7日	●人権学習②
15日	●月次祭(神宮参拝)
17日	●武道・バドミントン大会
18日	●保護者懇談会 20日
21日	●終業式
22日	●冬季休業開始 1月7日
1月	●始業式・火災避難訓練
8日	●センター試験 20日
25日	●平成31年度入学試験
2月	●合格発表
5日	●建国記念の日の講演
8日	●建国記念の日
11日	●B日程入学試験
2日	●B日程入学試験
8日	●建国記念の日の講演
11日	●学年末考査 21日
21日	●全校集会
3月	●第54回卒業式
1日	●学年末考査 7日
2日	●ニールランド語学研修 21日
12日	●2年進路ガイダンス
13日	●クラスマッチ 20日
19日	●終業式
23日	●こども学びプロジェクト
26日	●春季休業開始 4月6日
15日	●月次祭神宮参拝
17日	●授業公開
21日	●オープンスクール①
22日	●1年生宿泊研修 22日
5日	●スポーツ大会
13日	●防災体験学習
20日	●夏季休業開始 8月22日
22日	●三重県私立中学校フェア(津)
23日	●課外授業 27日
8月	●小学生・中学生英語スピーチコンテスト
18日	●授業開始
23日	●第2回実力テスト
31日	●地震避難訓練
9月	●オープンスクール②
2日	●期末考査 13日
10日	●全校集会
13日	●皇學館DAY
17日	●体育大会
18日	●国際理解・交流プログラム
29日	●伊勢大会陸上大会 29日
29日	●中体連秋季大会 30日
10月	●保護者懇談会 4日
3日	●秋季休業開始 10日
5日	●イングリッシュキャンプ 9日
7日	●始業式
11日	●神宮祭
17日	●皇中祭 21日
20日	●三重県私学大会
30日	●家庭に感謝する日
11月	●第3回実力テスト
1日	●2年生自然・産業体験宿泊研修 10日
9日	●第3回オープンスクール
11日	●伊勢市連合音楽会
13日	●ピンクシャッター 22日
15日	●授業参観
19日	●修学旅行 23日
12月	●冬季休業開始 1月7日
4日	●中間考査 6日
6日	●全校集会
13日	●交通安全教室
17日	●校友会改選
18日	●月次祭神宮参拝
21日	●人権学習
25日	●全校集会
1月	●冬季休業開始 1月7日
8日	●授業開始・火災避難訓練
17日	●A日程入学試験
18日	●人権講演会
22日	●第4回実力テスト
28日	●百人一首大会
2月	●B日程入学試験
2日	●建国記念の日の講演
8日	●学年末考査 21日
11日	●全校集会
21日	●高校進学説明会
22日	●保護者懇談会 13日
2日	●3年生を送る会
12日	●終業式
14日	●春季休業開始 4月5日
16日	●こども学びプロジェクト
19日	●春季休業開始 4月6日
24日	●春季休業開始 4月6日